

福島県県立病院改革プラン取組状況報告書

資料 2



福島県病院局

平成 25 年 10 月

～ 目次 ～

第1 改革プランの基本的な考え方

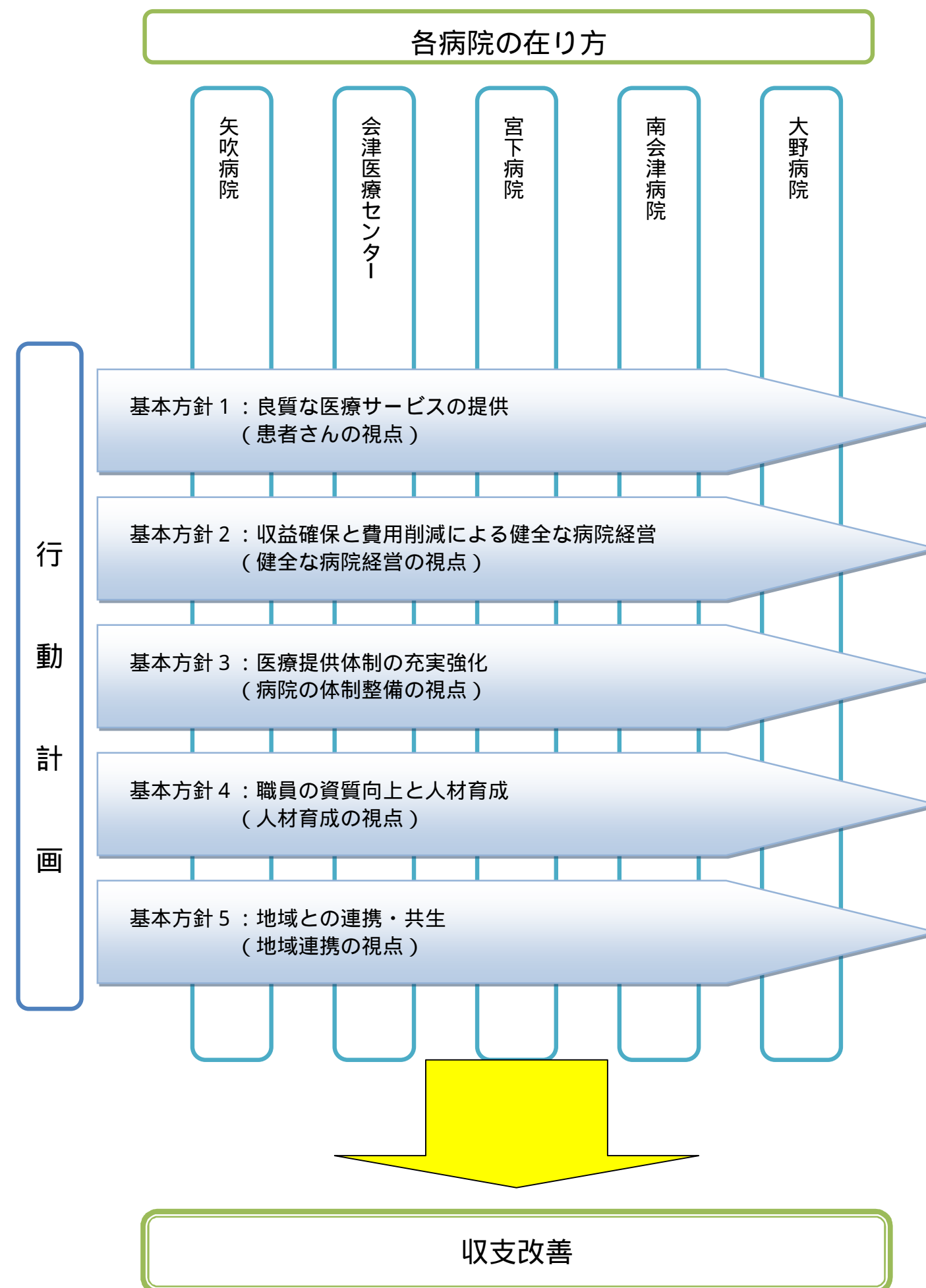
- 1 県立病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 改革プランの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

第2 評価方法

- 1 自己評価方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 2 自己評価基準について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

第3 自己評価

- 1 県立病院の在り方
 - (1) 矢吹病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - (2) 会津医療センター（喜多方病院・会津総合病院）・・・・ P 6
 - (3) 宮下病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
 - (4) 南会津病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
 - (5) 大野病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12
- 2 行動計画
 - (1) 基本方針1：良質な医療サービスの提供・・・・・・・・ P 14
 - (2) 基本方針2：収益確保と費用削減による健全な病院経営・・・・ P 20
 - (3) 基本方針3：医療提供体制の充実強化・・・・・・・・ P 29
 - (4) 基本方針4：職員の資質向上と人材育成・・・・・・・・ P 33
 - (5) 基本方針5：地域との連携共生・・・・・・・・ P 38
- 3 収支計画
 - (1) 平成24年度県立病院事業会計決算の概要・・・・・・・・ P 43
 - (2) 県立病院事業の収支計画について・・・・・・・・ P 44
 - (3) 各病院の収支計画について・・・・・・・・ P 45



県立病院概要

福島県立病院は、昭和 24 年に日本医療団から譲り受けた 7 病院 17 診療所を主体として発足し、その後医療行政の一環として、地域における病院の設置、他の公共団体に対する移管等を行い、現在は 6 病院となっている。なお、喜多方病院及び会津総合病院については統合のうえ、平成 25 年 5 月 11 日より福島県立医科大学の附属病院である会津医療センターとしてスタートしている。

(平成 25 年 3 月 1 日現在)

病院名	開設年月	標榜診療科名 ()は非常勤医師の診療科 【 】は休診中の診療科	病 床 数 (許 可)					看護体制	職 員 数								H25.3 合計	H24.3 合計
			一般	結核	精神	感染 症	計		医師	看護	薬剤	給食	医療 技術 職	事務	その他 職員			
矢 吹	昭和 30 年 11 月	精神科,内科,(歯科)			206		206	15 対 1 看護補助加算 1	6	81	3	6	11	6	1	114	116	
喜 多 方	昭和 24 年 7 月	内科,外科 (整形外科),(皮膚科),(眼科)	50				50	10 対 1	3	34	3	3	5	7	0	55	61	
会津総合	昭和 28 年 6 月	内科,循環器内科,血液内科 消化器内科, 小腸・大腸・肛門内科, 糖尿病・代謝・腎臓内科 感染症・呼吸器内科,漢方内科 神経内科,外科,整形外科 皮膚科,麻酔科,耳鼻いんこう科 神経精神科 リハビリテーション科,歯科 (婦人科),【 産科 】 (泌尿器科),(眼科),(放射線科) 【 心臓血管外科 】,【 小児科 】	204	50		8	262	(一般) 7 対 1 (結核) 15 対 1 看護補助加算 1	36 (22)	151	8	16	31	20	1	263 (22)	269 (16)	
宮 下	昭和 26 年 11 月	内科,外科 (整形外科) ,(皮膚科) (耳鼻いんこう科),(神経精神 科)	32				32	7 対 1	5	20	2	1	1	5	0	34	35	
南 会 津	昭和 24 年 7 月	内科,外科,整形外科 耳鼻いんこう科,麻酔科 小児科,(眼科) ,(神経内科) (婦人科)【 産科 】,(皮膚科) (神経精神科) ,(泌尿器科)	100				100	7 対 1	12	82	4	1	12	8	0	119	119	
大 野 休診中	昭和 26 年 12 月	【内科】 ,【消化器科】 ,【外科】 【整形外科】 ,【小児科】 【麻酔科】 ,【眼科】 ,【呼吸器 科】 ,【泌尿器科】 ,【産婦人科】	146			4	150	7 対 1	0	56	4	8	12	2	0	82	91	
合 計			532	50	206	12	800		62 (22)	424	24	35	72	48	2	667 (22)	691 (16)	

()内は会津医療センター準備室教員であり、内数である。
再任用職員は含まない。

1 策定の主旨

県立病院事業は、平成 16 年 4 月から地方公営企業法の全部適用に移行し、平成 19 年 3 月末に 3 病院 1 診療所を廃止・移譲して 6 病院体制となった。福島県病院事業経営改善計画（平成 19 年 3 月 26 日行財政改革推進本部県立病院改革部会報告。以下「経営改善計画」という。）に基づき、医療機能の充実強化や経営改善に取り組んできた。

しかしながら、医師不足の深刻化等により、医療提供体制の維持が極めて厳しく、医療機能を十分に発揮できない状況にあり、また、常勤医師の退職や短期交替等に伴う診療体制の変更等による患者数の減少や、診療報酬のマイナス改定の影響などにより、多額の赤字が生じるなど、これまでにない厳しい経営状況となった。

こうしたことから、県として、平成 19 年 12 月の国の「公立病院改革ガイドライン」の趣旨を踏まえ、県立病院の在り方を再整理するとともに、経営改善計画の取組みを加速し、『地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化』を基本目標とする「福島県県立病院改革プラン」を平成 21 年 5 月に策定した。

2 県立病院の在り方

地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供できる体制の構築を図ることを基本として、以下の見直しを行う。

病院名	果たすべき役割	経営形態
矢吹病院	民間病院では処遇困難な患者の受入れなどの精神医療の提供	県立病院として経営
会津医療センター （会津総合と喜多方）	1 「診療」・「教育」・「研究」の 3 つの機能を柱とする 2 地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける	県立医科大学の附属病院に移行
宮下病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
南会津病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
大野病院	1 医療拠点としての中核的機能 2 二次救急医療への対応	双葉厚生病院と統合する方向で検討

3 行動計画

「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、政策医療の確保を始め、地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化に向け、以下の 5 つの基本方針により取り組む。

基本方針	主な取組
1 良質な医療サービスの提供	・電子カルテ導入（会津総合）【21 年 3 月導入】 ・透析機器の増設（南会津） など
2 収益確保と費用削減による健全な病院経営	・常勤医師の確保や未利用財産の売却等 ・病棟再編・病床削減の実施（喜多方、宮下、南会津） など
3 医療提供体制の充実強化	・県立医科大学等との連携強化 ・医師紹介事業者の活用など医師確保の充実強化 ・医師の処遇改善策の実施 など
4 職員の資質向上と人材育成	・各専門分野のスペシャリストの育成 ・民間実務経験者の採用 など
5 地域との連携共生	・国保診療所への診療応援 など

4 収支計画

上記の基本方針に基づき、病院経営の健全化に向けた目標を設定し、具体的な取組みを確実に実行する。

【経営健全化に向けた収支目標】

目標 1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成 25 年度までに収支均衡を目指す。

目標 2：平成 23 年度までに資金不足の解消を目指す。

5 計画期間

（1）改革プラン全体：5 年間（平成 21～25 年度）

（2）経営健全化等に向けた行動計画：5 年間（平成 21～25 年度）

6 進行管理

（1）進捗状況については、毎年、取組状況及び自己評価結果を、有識者で構成される「県立病院事業経営評価委員会」から助言・意見をいただくとともに、ホームページ等で公表する。

（2）診療報酬の改定や患者の動向など、県立病院を取り巻く環境の変化に対応するため、必要に応じ、適切な見直しを行う。

1 自己評価方法について

平成 21 年 5 月に「福島県県立病院改革プラン」を策定し、地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化を図るため、具体的な実施手順や数値目標を定め、各病院の行動計画に基づいてさらなる経営改善・充実強化、患者サービスの向上や医療安全対策の強化を図った。

また、県立病院の在り方を踏まえた改革を進めながら、「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、B S C（バランスド・スコアカード）の考え方を活用し、5 つの基本方針に基づく具体的な取組みを実行した。

これらの実施状況については、下記の『県立病院の在り方』、『行動計画の基本方針 1 ～ 5 に掲げる 11 の共通目標』、『全体の収支計画』に対して、それぞれ 5 段階の評価基準により自己評価を行った。

	評価項目		目標達成 自己評価	取組状況 自己評価
在 り 方	矢吹病院		-	
	会津医療センター（喜多方病院・会津総合病院）		-	
	宮下病院		-	
	南会津病院		-	
	大野病院		-	
行 動 計 画	基本方針 1	医療の質の向上	-	
		患者サービスの向上		
	基本方針 2	収益の確保		
		未収金の発生防止と早期回収の強化		
		費用の見直し		
	基本方針 3	診療体制及び経営基盤の強化		
		医療安全対策の強化		
	基本方針 4	人材の育成と確保		
		職員の意識改革		
	基本方針 5	地域医療機関等との連携		
		県民への情報提供	-	
収 支 計 画	県立病院事業の収支計画			
	矢吹病院			-
	喜多方病院			-
	会津総合病院			-
	宮下病院			-
	南会津病院			-
	大野病院			-

*

2 自己評価基準について

平成 24 年度の改革プランの進捗状況については、次の 2 つの観点から自己評価を行った。

平成 24 年度目標値の『達成状況』（定量的評価）

目標値を達成するための『取組状況』（定性的評価）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）		取組状況の自己評価（定性評価）	
【 5 】	目標値を上回った 達成度 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満	【 5 】	極めて積極的に行われている
【 4 】	目標値を達成できた 達成度 9 0 % 以上 1 0 0 % 未満	【 4 】	積極的に行われている
【 3 】	目標値をほぼ達成できた 達成度 7 0 % 以上 9 0 % 未満	【 3 】	取り組んでいる
【 2 】	目標値を下回った 達成度 5 0 % 以上 7 0 % 未満	【 2 】	消極的である
【 1 】	目標値を大きく下回った 達成度 5 0 % 未満	【 1 】	実施に至っていない

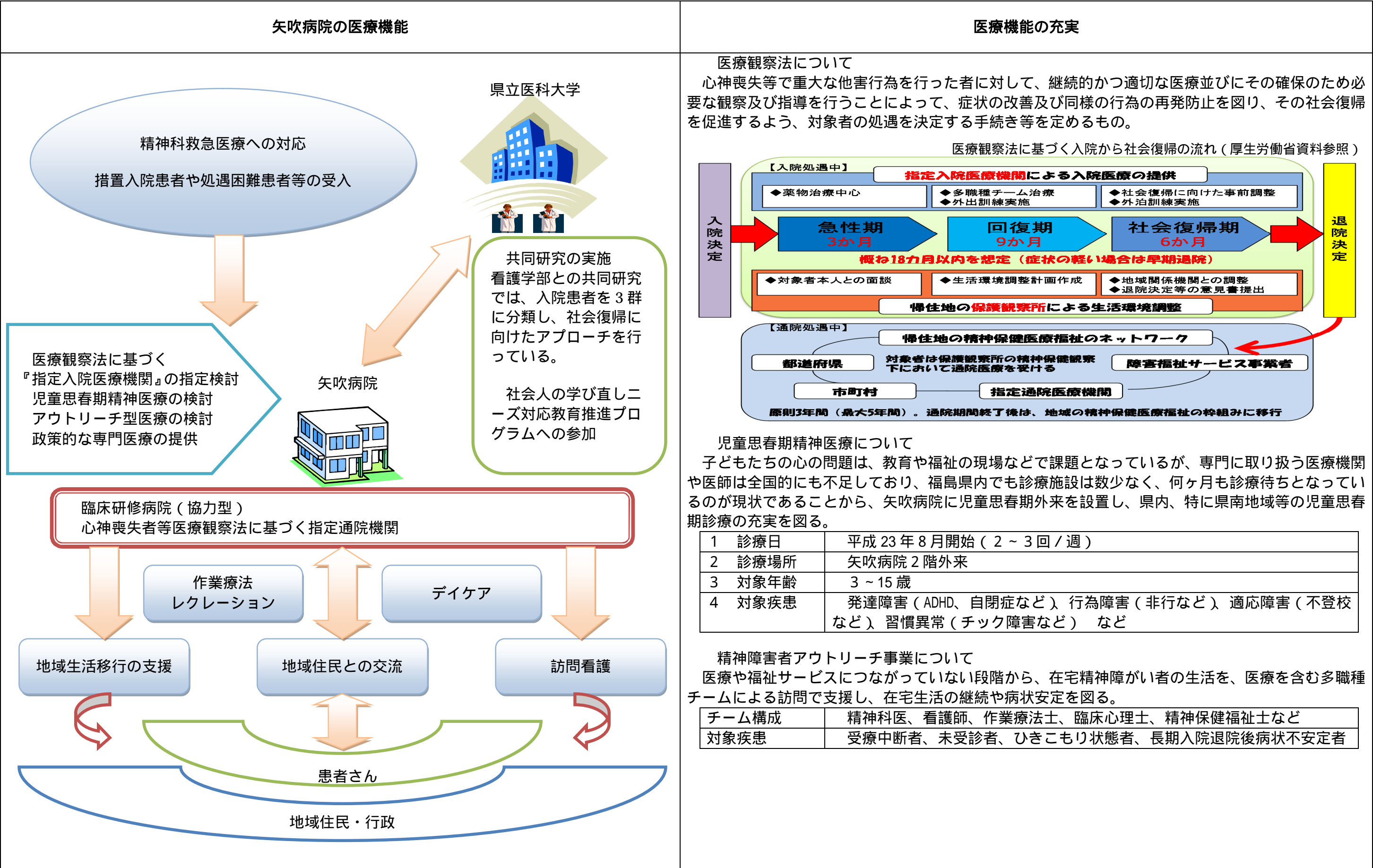
各分野で設定している共通目標指標については、その達成状況をわかりやすくするため、下記の基準により評価を行った。

* 目標値達成度指標 = 当該年度実績値 / 当該年度目標値 × 1 0 0

1 矢吹病院

(医師数： 6 人・病床数 206 床・精神単科病院)

	改革プランの内容		平成 24 年度の取組状況及び自己評価			
役 割	果たすべき役割	措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入れなどの精神医療提供	取組状況自己評価		【 ５ 】	極めて積極的に行われている
	経営形態	県立病院として経営				
医 療 機 能	措置入院患者や処遇困難患者の受入体制の充実強化	措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入体制の充実強化を図る。	常時満床に近い保護室に少しでも空床を確保するため、隔離期間の短縮・早期解放の実現に努めた結果、昨年度と同程度の患者数を受け入れることができた。			
医 療 機 能	心神喪失者等医療観察法に基づく患者への支援	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に対する医療の確保と社会復帰への支援を行うため、現在の心神喪失者等医療観察法に基づく「指定通院医療機関」に加え、指定入院医療機関としての指定についても検討を行う。	平成 17 年 7 月に心神喪失者等医療観察法に基づく指定通院機関の指定を受け、平成 25 年 1 月まで通院があった。 平成 24 年 5 月に指定入院医療機関としての指定に向けて、矢吹病院が立地する矢吹町に対し説明を行ったが、町との調整は難航している。引き続き、町に対し丁寧な説明を行い理解が得られるように努めていく。			
	患者の地域生活移行への支援	「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、患者の地域生活移行を引き続き進めるとともに、退院後も患者が地域の中で安心して暮らしていけるよう支援を強化する。	入院患者 26 名（内訳：継続支援者 6 名、新規支援者 20 名）に対して、施設見学を 33 回、体験入所を 39 回行い、ケース会議を 60 回開催した結果、16 名が地域生活へ移行した。今後もノウハウを蓄積しながら、入院患者の地域生活移行への取組を継続して実施していく。 外来診療に加えて、訪問看護、デイケアによる社会復帰に向けた生活支援等の充実を図った。			
医 療 機 能	政策的な専門医療の実施	県内の精神医療をリードする役割を果たすため、県立医科大学等との連携強化を図りながら、児童思春期、ストレスケア等の政策的な専門医療の実施に向けて検討する。	県立医科大学との連携の下、児童思春期外来（平成 23 年 8 月開設）の診療を通年で実施した。			
医 療 機 能	精神科救急医療への対応	精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制）に指定されており、引き続き救急医療を実施する。	精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制）として、毎月、救急輪番対応を実施した。その結果、夜間 66 回、休日 13 回、空床確保事業 54 回の計 133 回実施し、相談 29 件、来院 26 件、入院 13 件の計 68 件の対応実績であった。			
	臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や白河厚生総合病院等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	白河厚生総合病院から 5 名の臨床研修医を受け入れた。 県立医科大学附属病院や奥羽大学歯学部附属病院の協力型臨床研修病院としても指定されており、平成 25 年度も引き続き臨床研修医等への研修、教育を実施していく。			
規 模	地域生活支援体制の充実・強化を図り、入院患者の地域生活移行を促進するとともに、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定も視野に入れながら、平成 24 年度に 4 病棟から 3 病棟とする病棟再編を実施する。		心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定について、継続して検討を行っていく。			



2 会津医療センター（喜多方病院・会津総合病院）

（医師数：喜多方病院 3 人・会津総合病院 36 人 病床数：喜多方病院 50 床・会津総合病院 262 床）

改革プランの内容			平成 24 年度取組状況及び自己評価		
役割	果たすべき役割	1 「診療」・「教育」・「研究」の 3 つの機能を柱とする。 2 地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける。	取組状況自己評価	【 4 】	積極的に行われている
	経営形態	公立大学法人県立医科大学の附属病院に移行			
医療機能	診療機能等の在り方	会津地方全体の医療水準の維持・向上を図るため、へき地医療をはじめとする政策医療並びに地域特性に対応した医療を提供するとともに、県立医科大学附属病院として新たに備える教育研究機能を発揮し、本県医療の向上にも貢献することを基本として、医科大学とさらに協議を進め、診療機能等の在り方を決定する。	1 診療機能等のあり方について 平成 22 年度に会津総合病院内に会津医療センター準備室が設置され、これまでに準備室付け教員として常勤医 22 名が先行配置され、通常診療に従事しながら会津医療センターの開設準備業務に当たってきた。会津医療センターの診療機能等のあり方については、これらの準備室付け教授を中心とした会津医療センター開設検討委員会等で検討を行った。		
	診療科の決定	現在、会津総合病院と喜多方病院に勤務する医師と附属化後に医科大学から配置可能な医師等による体制を総合的に考慮して、診療科を決定する。 医科大学からは、「総合内科」、「東洋医学科」、「血液内科」等の新たな診療科の設置についての提案がある。	2 診療科について 診療科については、会津総合病院や喜多方病院に勤務する医師、附属化後に県立医科大学から配置可能な医師による体制を総合的に考慮し決定することとされており、最終的には 24 科でスタートすることになった。なお、これら 24 科のうち会津・南会津地域になかった血液内科及び漢方内科を会津総合病院に設置して診療を開始した。		
	政策医療の実施	二次救急医療、結核・感染症医療、へき地医療支援（へき地医療拠点センター病院）等の政策医療を実施する。	3 政策医療の実施について 会津・南会津医療圏内における医療機関ごとの機能分担を明確にし、相互補完、連携を行うことで域内の地域医療を支えていく観点から、へき地医療拠点センター病院としての機能及び結核・感染症医療等政策医療を継続していく方向で検討を行った。		
	地域連携	地域の医療機関との連携やネットワークの構築を図る。	4 地域連携について 地域医療機関との連携を促進し、紹介率の向上を図るため、会津地方医療機関に対するあいさつ回りの実施や地元医師会への加入促進を行った。		
	臨床研修病院等としての研修・教育機能の展開 自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院として臨床研修医への研修を行うほか、大学附属病院として学生等の教育にも活用する。		5 臨床研修病院等としての研修・教育機能の展開について 会津医療センターにおいては、臨床研修病院として卒後臨床研修に取り組むほか、大学附属病院として学生等の教育を行うことで検討が進められている。なお、平成 25 年度会津医療センター附属病院臨床研修プログラムでは 4 人を受け入れる予定である。		
			6 平成 24 年度の取組について 会津医療センター開設検討委員会等を中心として運営システム、移転検討、医療機器選定、医療情報システム及び教育研究運営等の詳細検討を実施した。		
規模	226 床程度（一般 200 床（うち緩和ケア 25 床） 集中 4 床、結核 14 床、感染症 8 床） 喜多方病院の経営改善に向けて、診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（135 床 50 床）する。（実施済）		7 会津医療センターの整備について 平成 22 年より整備を進めてきた会津医療センターについては、平成 25 年 3 月に建物が完成し、平成 25 年 5 月より県立医科大学の附属病院として運営を開始した。		

会津医療センター		医療機能の充実	
外観イメージ		《平成 24 年度の取組状況》	
		(喜多方病院)	
		地域医療連携活動	閉院に向けて、患者さんを他医療機関に責任をもって紹介するなど、地域医療の下支えや他医療機関との連携を図った。
		地域住民との交流	看護の日に院内イベントを開催し、医学講座やハンドマッサージの実演など実施した。
		救急医療の実施	当院は喜多方市内の 4 医療機関で構成する喜多方地方病院群輪番制協議会に参加しており、平成 24 年度については、病棟閉鎖直前の 11 月まで参加し、延べ 20 回の休日・夜間等の救急対応を行った。
		(会津総合病院)	
		地域医療連携活動	地域医療機関との連携を促進し、紹介率を向上させるため、会津地方医療機関に対するあいさつ回りの実施、地元医師会への加入促進を図った。
		地域貢献活動	市民公開講座、すい臓病講座、糖尿病教室を開催し、地域住民の医療に関する理解促進と普及啓発を行った。
		臨床研修病院等としての研修・教育	自治医科大学卒の医師 1 名を受け入れた。 県立医科大学医学部の学生をはじめ 24 人の病院見学を受け入れた。
診療科	24 科（ 院内標榜の診療科を含む） 総合内科 / 漢方内科 / 漢方外科 / 循環器内科 / 血液内科 / 消化器内科 / 糖尿病・代謝・腎臓内科 / 感染症・呼吸器内科 / 神経内科 / 心身医療科 / 外科 / 小腸・大腸・肛門科 / 整形外科・脊椎外科 / 眼科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 耳鼻咽喉科 / 放射線科 / 麻酔科 / 病理診断科 / 歯科 / リハビリテーション科 / 緩和ケア科 / 心臓血管外科		
病床数	226 床（一般 200 床（うち緩和ケア 25 床） 集中 4 床、結核 14 床、感染症 8 床）		
主な機能等	(1) 診療機能 病院として必要な基本診療科を設置する。 基本診療科においては、他の医療機関との役割分担を踏まえ、「高度医療」、「専門領域に特化した医療」を中心に診療を行う。 「結核医療」、「感染症医療」、「地域医療」等の政策医療を提供する。 地域に不足する診療科、高齢化等地域の特性に応じた診療科を設置、強化する。		
	学部教育	臨床研修医（前期研修医）及び専攻医（後期研修医）の積極的受入	
	研究部門	漢方医学研究室、臨床疫学研究室、医療工学研究室	

3 宮下病院

(医師数：5 人 病床数 32 床)

	改革プランの内容		平成 24 年度取組状況及び自己評価					
役割	果たすべき役割	へき地における医療提供	取組状況自己評価		【 4 】	積極的に行われている		
医療機能	経営形態	県立病院として経営	県立医科大学等との連携を強化しながら、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。					
	急性期医療の実施	県医療計画において「へき地医療拠点病院」に指定されており、当診療圏唯一の病院として緊急の内科的・外科的処置に対応する医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センターの支援を受けながら、この地域に不足している、高齢者に多い運動器や感覚器の疾患に対応する医療（整形外科、眼科、耳鼻咽喉科等）を提供する。	診療科名	H 24	H 23	H 22		
	へき地における医療の確保	へき地医療拠点病院として、国保診療所への派遣機能を維持するとともに、訪問診療・訪問看護等により住民の医療を確保するなど、県内で最も高齢化率が高い地域特性に対応した医療を提供する。	整形外科	2 回 / 月	2 回 / 月	2 回 / 月		
			神経精神科	1 回 / 隔週	1 回 / 隔週	1 回 / 隔週		
			耳鼻咽喉科	2 回 / 月	2 回 / 月	2 回 / 月		
			皮膚科	2 回 / 月	2 回 / 月	1 回 / 隔週		
	国保診療所等への医師派遣を継続するとともに、患者情報の共有化を図りながら、相互協力・連携を深めた。							
			場所	実施日	H 24	H 23	H 22	
			柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日	44 回 / 年	51 回 / 年	49 回 / 年	
			金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日	192 回 / 年	196 回 / 年	197 回 / 年	
		特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週火曜日（管理医）	50 回 / 年	48 回 / 年	50 回 / 年		
		地域の方々が安心して療養生活を続けられるように訪問診療・訪問看護を実施した。						
		項目	H 24		H 23		H 22	
			対象者	実施回数	対象者	実施回数	対象者	実施回数
		訪問診療	18 人	1 回 / 月 (121 件)	22 人	1 回 / 月 (131 件)	9 人	2 回 / 月（ 57 件 ）
		訪問看護	5 人	2 回 / 月（ 10 件 ）	7 人	2 回 / 週（ 46 件 ）	2 人	1 回 / 週（ 42 件 ）
臨床研修協力施設としての研修・教育機能の展開		県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修協力施設として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	臨床研修医や学生への研修、教育を行い、地域医療への理解と動機付けの機会とした。					
			項目	H 24	H 23	H 22		
			臨床研修協力施設として初期研修医の受入	1 人	2 人	1 人		
			会津保健福祉事務所との連携によるへき地医療体験研修の受入	5 人	7 人	23 人		
地域住民の健康増進への支援		地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行う。	地域住民の健康増進を図るため、健康診断や人間ドックなどを実施したほか、地域に出向く活動も積極的に展開した。					
			項目	H 24	H 23	H 22		
			健康診断実施人数	273 人	226 人	259 人		
			人間ドック実施人数	19 人	5 人	16 人		
			健康診断事業受託件数	16 件	19 件	16 件		
			院内健康教室の開催	年 13 回・99 人	年 6 回・56 人	年 11 回・107 人		
			心ある医療「出前講座」の開催	年 29 回・541 人	年 18 回・396 人	年 23 回・491 人		
規模	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（55 床 32 床）する。（実施済）		平成 21 年 4 月 1 日付けで 55 床から 32 床に病床変更を行った。					

宮下病院の医療機能	医療機能の充実						
<div data-bbox="142 325 1466 1816"><div>地域住民、患者さん、保健・介護・福祉施設、行政機関</div><div><div>介護施設との 合同ケア会議</div><div>介護保健施設等</div><div>柳津町診療所</div><div>金山町診療所</div><div>診療 応 援</div></div><div><div>宮下病院等後援会</div><div>地域住民 との交流</div><div>心ある医療 出前講座</div><div>へき地医療拠点病院 臨床研修病院（協力型）</div><div>宮下病院</div><div>臨床研修医・学生への研修、教育</div><div>医師派遣</div><div>訪問看護</div><div>訪問診療</div><div>在宅医療 への支援</div><div>救急患者の受入</div></div><div><div>自治医科大学</div><div>県立医科大学</div><div>県立会津総合病院</div></div></div>	<div data-bbox="1498 296 1855 331">《平成 24 年度の取組状況》</div> <table><tr><td data-bbox="1498 363 1816 399">地域医療連携活動</td><td data-bbox="1816 363 2825 531">医療・保健・福祉関係機関連絡会議を年 2 回開催し、関係機関との情報共有を行った。 医療圏町村の広報誌に当院の情報（医療に関する情報や医師紹介など）を掲載してもらった。</td></tr><tr><td data-bbox="1498 531 1816 567">地域住民との交流</td><td data-bbox="1816 531 2825 625">看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズを配付したほか、血管年齢・血圧・骨密度測定を行い、健康状態の確認に役立ててもらった。</td></tr><tr><td data-bbox="1498 625 1816 661">心ある医療・出前講座</td><td data-bbox="1816 625 2825 720">当院の医師、看護師、薬剤師等が地域に出向き健康づくりに関する講演等を行った。（29 回・541 人参加）</td></tr></table>	地域医療連携活動	医療・保健・福祉関係機関連絡会議を年 2 回開催し、関係機関との情報共有を行った。 医療圏町村の広報誌に当院の情報（医療に関する情報や医師紹介など）を掲載してもらった。	地域住民との交流	看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズを配付したほか、血管年齢・血圧・骨密度測定を行い、健康状態の確認に役立ててもらった。	心ある医療・出前講座	当院の医師、看護師、薬剤師等が地域に出向き健康づくりに関する講演等を行った。（29 回・541 人参加）
地域医療連携活動	医療・保健・福祉関係機関連絡会議を年 2 回開催し、関係機関との情報共有を行った。 医療圏町村の広報誌に当院の情報（医療に関する情報や医師紹介など）を掲載してもらった。						
地域住民との交流	看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズを配付したほか、血管年齢・血圧・骨密度測定を行い、健康状態の確認に役立ててもらった。						
心ある医療・出前講座	当院の医師、看護師、薬剤師等が地域に出向き健康づくりに関する講演等を行った。（29 回・541 人参加）						

4 南会津病院

(医師数：12 人 病床数 100 床)

	改革プランの内容		平成 24 年度取組状況及び自己評価														
役 割	果たすべき役割	へき地における医療提供	取組状況自己評価	【 4 】	積極的に行われている												
	経営形態	県立病院として経営															
医 療 機 能	急性期医療の実施	南会津地域保健医療圏における唯一の病院として、入院・専門外来に係る医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センターの支援を受けながら、急性期医療を実施する。	小児科については、平成 23 年 6 月から常勤医 2 名を配置し、平成 24 年 4 月以降は常勤医 1 名となり体制を継続した。 眼科については、常勤医の異動に伴い、平成 24 年 4 月から県立医科大学及び竹田総合病院からの非常勤医の診療応援により 2 回/週で開設した。														
	へき地における医療の確保	へき地医療拠点病院として、公的診療所への派遣機能の維持など、へき地医療を提供する。	国保診療所への医師派遣を行った。 <table><tr><th>場 所</th><th>H 24</th><th>H 23</th><th>H 22</th></tr><tr><td>只見町国民健康保険朝日診療所</td><td>22 回 / 年</td><td>23 回 / 年</td><td>28 回 / 年</td></tr></table>				場 所	H 24	H 23	H 22	只見町国民健康保険朝日診療所	22 回 / 年	23 回 / 年	28 回 / 年			
	場 所	H 24	H 23	H 22													
	只見町国民健康保険朝日診療所	22 回 / 年	23 回 / 年	28 回 / 年													
	救急医療への対応	県医療計画において第二次救急医療機関に位置付けられており、引き続き救急医療を実施する。	時間外患者数は 4,573 人であり、対前年度比で 149 人の増となった。また、救急車の受入回数は 824 回であり、対前年度比で 17 回の増となった。														
	災害時医療への対応	大規模災害、重篤救急患者の救命医療に対応するため、地域災害医療センターとして、引き続き災害時医療を実施する。	災害拠点病院としての機能の充実を図るため、核となる職員を養成するための研修受講や災害対応施設・設備の見直し、非常用電源（自家発電）対応のコンセントの配置拡充等を実施した。														
	総合的な医療提供体制の確立	広大な面積を有する診療圏において、患者の利便性を考慮する必要があることから、地域の中核病院として、二次医療を中心に、診断・治療からリハビリテーションに至る総合的な医療提供体制の確立を目指す。	リハビリテーションについては、引き続き、地域リハビリテーション広域支援センターに指定され、理学療法士 3 名体制で充実した活動が展開された。 療養環境の向上を図るため、院内コンサートを開催した。														
	臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	臨床研修医や学生への研修、教育を行い、地域医療への理解と動機付けの機会とした。 <table><tr><th>項 目</th><th>H 24</th><th>H 23</th><th>H 22</th></tr><tr><td>地域医療実習（自治医大生）</td><td>3 人</td><td>2 人</td><td>3 人</td></tr></table>				項 目	H 24	H 23	H 22	地域医療実習（自治医大生）	3 人	2 人	3 人			
項 目	H 24	H 23	H 22														
地域医療実習（自治医大生）	3 人	2 人	3 人														
地域住民の健康増進への支援	地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じ、地域住民の健康増進への支援を行う。	健康診断実施人数は 798 人となり、対前年度比で 163 人の減となった。そのうち、人間ドック実施人数は 165 人となり、対前年度比で 16 人の減となった。 <table><tr><th>項 目</th><th>H 24</th><th>H 23</th><th>H 22</th></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>798 人</td><td>961 人</td><td>799 人</td></tr><tr><td>うち人間ドッグ</td><td>165 人</td><td>181 人</td><td>122 人</td></tr></table> 病院広報紙「かけはし」を 3 回発行し、うち 2 回は郡内全戸に配布するなど、病院の存在をあらためて地域にアピールした。また、出前講座等については、地域からの要請に応じ医療講演等に職員を派遣した。（派遣回数：医師 5 回、看護師 4 回）				項 目	H 24	H 23	H 22	健康診断実施人数	798 人	961 人	799 人	うち人間ドッグ	165 人	181 人	122 人
項 目	H 24	H 23	H 22														
健康診断実施人数	798 人	961 人	799 人														
うち人間ドッグ	165 人	181 人	122 人														
規 模	診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 21 年度に 3 病棟から 2 病棟へ病棟再編し、病床数を削減（150 床 100 床）する。（実施済）		平成 21 年 3 月末日に、150 床から 100 床に病床変更を行った。														

南会津病院の医療機能	医療機能の充実				
<div><p>地域住民、患者さん、地元医師会、保健・介護・福祉施設、行政機関</p><p>地域医療協議会</p><p>診療圏唯一の病院として救急医療の受入</p><p>地域住民の健康健康診断・人間ドック</p><p>透析設備の充実</p><p>介護保健施設等</p><p>支援</p><p>支援交流</p><p>診療応援</p><p>只見町朝日診療所</p><p>南会津病院</p><p>南会津地方広域市町村圏組合地域医療支援センター</p><p>へき地医療拠点病院 救急告示病院 臨床研修病院（協力型） 地域災害医療センター</p><p>臨床研修医・学生への研修、教育</p><p>医師派遣</p><p>連携</p><p>自治医科大学</p><p>県立医科大学</p><p>県立会津総合病院</p><p>民間病院</p></div>	<p>《平成 24 年度の取組状況》</p> <table><tr><td>地域医療連携活動</td><td>地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者と当院職員の懇談会の開催等により、他医療機関等が患者を紹介しやすくなるような環境の整備を図った。</td></tr><tr><td>透析設備の充実</td><td>平成 21 年度に透析機器を 7 台増設し、19 台とした。 透析患者数は、対前年度比で 355 人の増となった。</td></tr></table> <p>平成 21 年度に策定された「福島県地域医療再生計画」（会津・南会津医療圏）に掲げる下記の事業を活用しながら、南会津病院の機能向上を図っていく。</p> <div><p>「南会津病院機能向上事業（H22～H25）」</p><p>南会津医療圏唯一の病院である県立南会津病院の機能向上を図りながら、会津医療圏の民間病院との連携と役割分担を進めるため、特に予防医療及び回復期の患者の受入に必要な医療機器の整備等を行う。 マンモグラフィ、CR システムの導入を行い、医療機能の充実を行った。</p><p>地域医療支援病院であり地域周産期母子医療センターを有する竹田総合病院と県立会津総合病院や只見町朝日診療所を始めとするへき地診療所をネットワークシステムで結び、患者さんの利便性向上を図りながら、検査や処方、画像データの診療情報の共有化を行い、医療機関どうしの地域連携を促進して、急性期から在宅まで一貫した質の高い診療を行う。 なお、電子カルテシステムが未整備の病院・へき地診療所については、電子カルテシステムの導入を併せて行う。 電子カルテシステム及び地域医療連携ネットワークシステムの導入を行った。 なお、今後、関係者より当該ネットワークの協議会が設置される見込みであり、その中で、運用方法等について検討を行う予定となっている。</p></div>	地域医療連携活動	地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者と当院職員の懇談会の開催等により、他医療機関等が患者を紹介しやすくなるような環境の整備を図った。	透析設備の充実	平成 21 年度に透析機器を 7 台増設し、19 台とした。 透析患者数は、対前年度比で 355 人の増となった。
地域医療連携活動	地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者と当院職員の懇談会の開催等により、他医療機関等が患者を紹介しやすくなるような環境の整備を図った。				
透析設備の充実	平成 21 年度に透析機器を 7 台増設し、19 台とした。 透析患者数は、対前年度比で 355 人の増となった。				

5 大野病院

(休診中 病床数 150 床)

			改革プランの内容		平成 24 年度取組状況及び自己評価		
役割	果たすべき役割		医療拠点としての中核的機能・二次救急医療への対応		取組状況自己評価	-	-
	経営形態		福島県厚生農業協同組合連合会が運営する双葉厚生病院と統合する方向で検討				
医療機能	統合により目指すもの	診療機能の強化と医療サービスの向上	病院の機能強化や診療体制の充実等により、常勤医師のいる診療科の増加、複数医師の診療体制による診療内容の充実、併科受診の容易性の向上など医療サービスの向上を図る。		<p>平成 23 年 4 月 1 日に県立大野病院と双葉厚生病院を統合し、双葉地域の中核病院としての整備を図り、「地域内で完結できるような救急医療」の体制を構築するため、平成 22 年 7 月 5 日に県と JA 福島厚生連で基本協定を締結した。</p> <p>平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を契機とした、福島第一原子力発電所事故の影響により、同所より 20km 圏内が「帰還困難区域（旧警戒区域）」と設定されたことから、県と JA 福島厚生連とで統合の延期を申し合わせている。</p> <p>今後は、住民動向を注視しながら、双葉郡町村からの情報収集を重ねるとともに、JA 福島厚生連や関係部局との十分な連携の下、浜通り地方医療復興計画に基づく双葉地域の医療供給体制の再構築に向けて、その方向性を検討していく必要がある。</p>		
		救急医療など政策医療の充実	病院の機能強化や診療体制の充実等により、救急患者の受入幅を拡大し、双葉郡内の搬送率を高めるなど、双葉地域の救急医療の向上を図る。				
		医師の勤務環境の向上等による医師の確保	医師の適正配置等により、医師の勤務環境を向上させ、新たな医師の確保を図る。				
	病院機能の在り方	統合に向けた詳細計画の策定に当たっては、県、福島県厚生農業協同組合連合会、大野病院及び双葉厚生病院の院長、地元町村会、地元医師会等から構成される（仮称）計画策定委員会を設置して、検討を行う。					
大野病院の経営改善							
診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 22 年度に 3 病棟から 2 病棟へ病棟再編を検討する。							

基本方針１：良質な医療サービスの提供（患者さんの視点）

【改革プラン方針】 地域住民の医療ニーズに的確に対応しながら、『質の高い医療サービスの提供』と『安らぎのある落ち着いた医療環境を提供できる患者サービスの向上』を通じ、患者さんの満足度の向上を図る。		平成 24 年度取組状況及び自己評価					
目標 1	医療の質の向上	目標値達成状況評価		取組状況評価			
		【 - 】	目標値は設定していないため	【 5 】	極めて積極的に行われている		
<p>〔政策医療や予防医療の充実〕 民間医療機関等では対応が困難なへき地医療や精神・感染症医療等政策医療を安定して提供するとともに、保健・医療・福祉の連携により、県医療計画に定める 4 疾病 5 事業 や生活習慣病対策などの予防医療等の充実を図る。</p> <p>4 疾病 5 事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 4 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）・ 5 事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療） <p>〔病院活性化による医療の質的向上〕 全スタッフがー丸となって「NST（栄養サポートチーム）」に代表される医師とコメディカルスタッフとの連携したチーム医療に取り組むとともに、病院内部の様々な委員会の活性化を図ることにより、医療の質を確保する。</p> <p>〔病院機能評価の取得〕 病院機能評価の取得を通じて、病院機能の向上を図るとともに、患者さんの権利や安全・安心を確保するための体制整備を行う。</p> <p>〔説明責任の発揮〕 患者さんとの信頼関係を構築するため、治療内容等について十分に説明を行い、患者さんの意見を尊重しながら同意を得た上で治療を実施するインフォームド・コンセントの充実を図る。</p>		1 政策医療や予防医療の実施について					
		病院名		取組状況			
		矢吹病院		児童思春期外来の診療を通年で実施した。（平成 23 年 8 月開設）			
		会津総合病院		病院職員が講師となり、糖尿病教室を開催した。（毎週火・木曜日開催）			
		宮下病院 南会津病院		「へき地医療拠点病院」として、国保診療所等への医師派遣を行った。 【医師派遣回数】			
				年度	宮下病院	南会津病院	
				H24	286 回	22 回	
				H23	295 回	30 回	
				H22	296 回	28 回	
		2 病院活性化による医療の質的向上について 高度な臨床栄養管理を適切に実施するための「NST（栄養サポートチーム）」や、人工呼吸器の離脱に向け適切な呼吸器設定及び口腔状態の管理を行うための「RST（呼吸サポートチーム）」を設置し、チーム医療の推進を行った。（会津総合病院）					
		3 病院機能評価取得について 財団法人日本医療機能評価機構から Ver 6 の認定取得を行った。					
		病院名		Ver 4 又は 5 認定期間		Ver 6 認定	
		矢吹病院		17 年 3 月～22 年 3 月		認定 【平成 22 年 3 月～平成 27 年 3 月】	
		南会津病院		18 年 3 月～23 年 3 月		認定 【平成 23 年 3 月～平成 28 年 3 月】	
		宮下病院		19 年 2 月～24 年 2 月		認定 【平成 24 年 2 月～平成 29 年 2 月】	
		4 説明責任の発揮について 定期的に委員会を開催し、患者・家族への安心・安全な医療と情報提供について検討した。 カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が図られ、インフォームド・コンセントやチーム医療の充実など、医療の質の向上につながった。（会津総合病院） 治療や検査に関する説明様式の見直しなどを通じて、インフォームド・コンセントの充実に努めた。（宮下病院）					

目標 2	患者サービスの向上	目標値達成状況		取組状況評価			
		【 3 】	目標をほぼ達成できた	【 3 】	取り組んでいる		
<div>「実践的な接客能力向上」</div> <p>患者さんの立場を考えて行動することができる心ある職員となることを目指し、患者さんを尊重した言葉遣いや応待を実践するロールプレイなどの実践的な学習方法などを取り入れた接客研修会を定期的に関催し、職員の接客能力の向上を図る。</p> <div>「病院全体の業務改善」</div> <p>患者さんにより良質なサービスを提供するため、待ち時間の短縮を始めとする業務改善に職員が一丸となって取り組む。</p>		《平成 24 年度の取組状況》					
		1 接客能力向上について					
		各病院において、接客向上委員会や研修会を実施し、職員の接客能力の向上に努めた。					
		患者さんの実態や病院への評価・満足度を把握し、その問題点の改善や満足度の向上に役立てるため、患者満足度調査を実施した。					
		【患者満足度調査結果】					
			H24	H23	H22	震災対応のため、平成 23 年度調査は未実施。 喜多方病院及び会津総合病院については会津医療センターへの移行準備等のため、平成 24 年度調査は未実施。	
		矢吹病院	63%	-	61%		
		喜多方病院	-	-	66%		
		会津総合病院	-	-	71%		
		宮下病院	69.4%	-	89.3%		
南会津病院	82.2%	-	87.4%				
2 業務改善について							
予約制を導入し、待ち時間の短縮に努めた。							
病院名	内容						
矢吹病院	平成 24 年 5 月より精神科外来の午前の再診について予約制を導入。						
宮下病院	昨年度に引き続き、内科と外科について予約診察を実施。						
無料送迎バスを運行し、患者さんの通院の利便性の向上を図った。（矢吹、宮下病院）							
【無料送迎バス利用者数】							
病院名	H24	H23	H22	運行概要			
矢吹病院	5,401 人	4,442 人	4,138 人	矢吹病院～矢吹駅間（迎え 2 便/日、送り 5 便/日） 矢吹病院～矢吹駅～メガステージ（送り 1 便/週）			
宮下病院	3,822 人	3,930 人	4,036 人	宮下病院～柳津・三島・金山町間（3 往復/日）			
平成 21 年 3 月に導入したオーダーリングシステムにより、会計待ち時間の短縮が図られた。 （会津総合病院）							
待ち時間を活用した院内イベントや健康教室、院内ギャラリーにおける地域住民等の各種展示などを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。（宮下、南会津病院）							
共通目標指標							
患者満足度		* 外来患者と入院患者に対する年 1 回の患者アンケート調査結果 平成 23 年度は震災対応のため、調査未実施					
H21実績 77.4%		H22実績 75.1%		H23実績 -%	H24目標 85%以上	H24実績 71.5%	H25目標 85%以上

目標１：医療の質の向上（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成 24 年度取組状況	取組評価																
1	共通取組	病院機能評価の認証更新	医療の質の向上と信頼の確立を目的として、財団法人日本医療機能評価機構が中立的な立場で医療機関の機能を評価・審査する病院機能評価の認定更新を図る。	財団法人日本医療機能評価機構から Ver 6 の認定取得を行った。〔再掲 P 14〕	5																
2		インフォームド・コンセントの充実	良質な医療の提供を図るため、患者さんに対する的確な診断と治療はもとより、診断内容、治療計画さらには副作用やリスク等を含めて十分説明し、患者さんが理解、納得した上で治療行為を選択していくインフォームド・コンセントの充実を図る。	定期的に委員会を開催し、患者・家族への安心・安全な医療と情報提供について検討した。〔再掲 P 14〕 カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が図られ、インフォームド・コンセントやチーム医療の充実など、医療の質の向上につながった。（会津総合病院）〔再掲 P 14〕 治療や検査に関する説明様式の見直しなどを通じて、インフォームド・コンセントの充実に努めた。（宮下病院）〔再掲 P 14〕	4																
3	矢吹病院	訪問看護の充実検討	今後とも新規退院患者などへのきめ細かな訪問看護を実施する。	外来治療の一環として訪問看護を実施した。 【訪問看護 1 日平均患者数】 <table><tr><td>H 24</td><td>H 23</td><td>H 22</td></tr><tr><td>7.3 人 / 日</td><td>6.9 人 / 日</td><td>6.7 人 / 日</td></tr></table>	H 24	H 23	H 22	7.3 人 / 日	6.9 人 / 日	6.7 人 / 日	5										
H 24	H 23	H 22																			
7.3 人 / 日	6.9 人 / 日	6.7 人 / 日																			
4		デイケア(社会復帰訓練) の充実検討	料理や手芸、スポーツ、季節ごとの行事などのプログラムなどを行うなど、デイケアの充実強化を図る。	患者の個別的な関わりに重点をおいて、患者ニーズを引き出しながらデイケアを実施した。 【デイケア 1 日平均患者数】 <table><tr><td>H 24</td><td>H 23</td><td>H 22</td></tr><tr><td>17.6 人 / 日</td><td>15.0 人 / 日</td><td>15.8 人 / 日</td></tr></table>	H 24	H 23	H 22	17.6 人 / 日	15.0 人 / 日	15.8 人 / 日	5										
H 24	H 23	H 22																			
17.6 人 / 日	15.0 人 / 日	15.8 人 / 日																			
5		心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定検討	触法精神障害者の専門的入院治療と社会復帰を支援する医療体制の充実に向けて検討する。	平成 24 年 5 月に指定入院医療機関としての指定に向けて、矢吹病院が立地する矢吹町に対し説明を行ったが、町との調整は難航している。引き続き、町に対し丁寧な説明を行い理解が得られるように努めている。〔再掲 P 4〕 心神喪失者等医療観察法に関連する研修に職員を参加させるなど人材養成に努めた。	3																
6	喜多方病院	受診枠の拡大による健康診断及び人間ドック充実	地域の要望に対応するため、1 日当たりの受診枠を拡大して、健康診断・人間ドック事業を充実する。	閉院準備のため 9 月末日で健康診断業務を終了したことにより、受診者数が大幅に減少した。 <table><tr><td>項目</td><td>H 24</td><td>H 23</td><td>H 22</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>876 人</td><td>1,670 人</td><td>1,718 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>322 人</td><td>666 人</td><td>591 人</td></tr><tr><td>医療相談収益（税込み）</td><td>14,277 千円</td><td>26,637 千円</td><td>24,614 千円</td></tr></table>	項目	H 24	H 23	H 22	健康診断実施人数	876 人	1,670 人	1,718 人	人間ドック実施人数	322 人	666 人	591 人	医療相談収益（税込み）	14,277 千円	26,637 千円	24,614 千円	4
項目	H 24	H 23	H 22																		
健康診断実施人数	876 人	1,670 人	1,718 人																		
人間ドック実施人数	322 人	666 人	591 人																		
医療相談収益（税込み）	14,277 千円	26,637 千円	24,614 千円																		
7	会津総合病院	電子カルテシステム導入による医療の質の向上	患者さんに対する画面上での説明や待ち時間の短縮による患者サービスの向上のほか、データベースに蓄積された診療情報を症例研究に活用することで、質の高い医療を提供する。	電子カルテを導入したことにより、診療情報の共有化が可能となり、インフォームド・コンセントやチーム医療の充実など医療の質の向上につながっている。さらに、オーダリングシステムとの連携により、検査・処置、投薬その他における患者誤認の防止や会計処理の迅速化にもつながっている。	5																
8		チーム医療の推進	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などが一体となり、多職種で各疾患治療に応じた栄養管理を適切に実施する N S T (栄養サポートチーム) の充実を図るなど、チーム医療の推進を図る。	高度な臨床栄養管理を適切に実施するための「 N S T (栄養サポートチーム) 」や、人工呼吸器の離脱に向け適切な呼吸器設定及び口腔状態の管理を行うための「 R S T (呼吸サポートチーム) 」を設置し、チーム医療の推進を行った。〔再掲 P 14〕	5																

行動計画取組状況（基本方針１：良質な医療サービスの提供（患者さんの視点））

9	宮下病院	診療圏域内唯一の病院として質の高い安定的な医療の提供	地域の方々が安全に安心して暮らしていけるよう、診療圏域内唯一の病院として、常勤医師の確保・定着に向けた取組みを強化していくとともに、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、高齢化が急速に進展する地域特性に対応した医療を継続して提供する。	県立医科大学等との連携を強化しながら、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。〔再掲 P8〕	4																
10		訪問診療・訪問看護による在宅医療への支援	地域の保健・医療・福祉関係機関との連携を強化しながら、訪問診療・訪問看護の充実を図り、在宅医療への支援を強化する。	地域の方々が安心して療養生活を続けられるように訪問診療・訪問看護を実施した。〔再掲 P8〕	4																
11		健康診断・人間ドック事業の充実	健康診断を担当する内科医師を配置するとともに、受診項目の充実や料金体系の見直しを行い、健康診断・人間ドック事業の拡充を図る。	地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドックによる疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進に取り組んだ。 <table><tr><td>項目</td><td>H24</td><td>H23</td><td>H22</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>273 人</td><td>226 人</td><td>259 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>19 人</td><td>5 人</td><td>16 人</td></tr><tr><td>医療相談収益（税込み）</td><td>4,123 千円</td><td>3,547 千円</td><td>3,591 千円</td></tr></table>	項目	H24	H23	H22	健康診断実施人数	273 人	226 人	259 人	人間ドック実施人数	19 人	5 人	16 人	医療相談収益（税込み）	4,123 千円	3,547 千円	3,591 千円	5
項目	H24	H23	H22																		
健康診断実施人数	273 人	226 人	259 人																		
人間ドック実施人数	19 人	5 人	16 人																		
医療相談収益（税込み）	4,123 千円	3,547 千円	3,591 千円																		
12	南会津病院	透析器機の増設による透析機能の強化	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	南会津地域の維持透析の充実を図るため、透析機器を 7 台増設して、計 19 台とした。 (平成 21 年度増設済み) <table><tr><td>項目</td><td>H24</td><td>H23</td><td>H22</td></tr><tr><td>透析の実患者数</td><td>40 人</td><td>40 人</td><td>38 人</td></tr></table>	項目	H24	H23	H22	透析の実患者数	40 人	40 人	38 人	3								
項目	H24	H23	H22																		
透析の実患者数	40 人	40 人	38 人																		
13		健康診断・人間ドック事業の充実	地域の要望に対応するため、平成 20 年度より開始した人間ドックの受診枠を拡大して充実を図る。	受診者が減少する冬場に割引キャンペーンを実施するなど、受診者確保に努めた。 <table><tr><td>項目</td><td>H24</td><td>H23</td><td>H22</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>633 人</td><td>780 人</td><td>677 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>165 人</td><td>181 人</td><td>122 人</td></tr><tr><td>医療相談収益（税込み）</td><td>16,310 千円</td><td>18,089 千円</td><td>13,913 千円</td></tr></table>	項目	H24	H23	H22	健康診断実施人数	633 人	780 人	677 人	人間ドック実施人数	165 人	181 人	122 人	医療相談収益（税込み）	16,310 千円	18,089 千円	13,913 千円	4
項目	H24	H23	H22																		
健康診断実施人数	633 人	780 人	677 人																		
人間ドック実施人数	165 人	181 人	122 人																		
医療相談収益（税込み）	16,310 千円	18,089 千円	13,913 千円																		
14	大野病院	内科医師の確保による健康診断事業の充実	特定検診・特定保健指導や地域のニーズに対応できる健康診断事業の実施・充実に努める。	休診中のため未実施	-																

目標２：患者サービスの向上（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成 24 年度取組状況	取組評価																										
15	共通取組	患者アンケート調査や接遇向上委員会による接遇の向上	患者アンケート調査やご意見箱の設置などにより、患者さんのニーズや意見を把握できる体制を整えるとともに、定期的に接遇向上委員会を開催し、接遇技術の向上を図るための研修会やロールプレイ等の学習会を企画するなど、患者さんの立場に立った接遇サービスの向上を図る。	<table><tr><td colspan="2">各病院の取組状況</td></tr><tr><td>病院名</td><td>取組状況</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>患者サービスの向上を図るため、院内に投書箱を設置するとともに、投書のあった内容については検討し、病院運営にフィードバックした。また、接遇向上委員会や接遇研修会を開催し、職員の接遇向上に取り組んだ。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>「患者様の視点に立って」をテーマに研修会を実施した。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>来院者からの苦情や要望等を受け付けるため、院内各所に投書箱を設置し、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示板に掲示した。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td><table><tr><td colspan="2">接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。</td></tr><tr><td>研修名</td><td>実施回数</td></tr><tr><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td><td>1 回</td></tr><tr><td>接遇研修（接遇の心構え、クレーム対応、ロールプレイ）</td><td>2 回</td></tr><tr><td>接遇研修（ロールプレイによる具体的なケーススタディ）</td><td>2 回</td></tr></table></td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>患者満足度調査の結果、外来の待ち時間に関する項目や入院の食事に関する項目において満足度が低かったことから、今後、改善に向けた状況の再分析と検討を実施したい。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>-</td></tr></table>	各病院の取組状況		病院名	取組状況	矢吹病院	患者サービスの向上を図るため、院内に投書箱を設置するとともに、投書のあった内容については検討し、病院運営にフィードバックした。また、接遇向上委員会や接遇研修会を開催し、職員の接遇向上に取り組んだ。	喜多方病院	「患者様の視点に立って」をテーマに研修会を実施した。	会津総合病院	来院者からの苦情や要望等を受け付けるため、院内各所に投書箱を設置し、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示板に掲示した。	宮下病院	<table><tr><td colspan="2">接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。</td></tr><tr><td>研修名</td><td>実施回数</td></tr><tr><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td><td>1 回</td></tr><tr><td>接遇研修（接遇の心構え、クレーム対応、ロールプレイ）</td><td>2 回</td></tr><tr><td>接遇研修（ロールプレイによる具体的なケーススタディ）</td><td>2 回</td></tr></table>	接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。		研修名	実施回数	転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	1 回	接遇研修（接遇の心構え、クレーム対応、ロールプレイ）	2 回	接遇研修（ロールプレイによる具体的なケーススタディ）	2 回	南会津病院	患者満足度調査の結果、外来の待ち時間に関する項目や入院の食事に関する項目において満足度が低かったことから、今後、改善に向けた状況の再分析と検討を実施したい。	大野病院	-	3
各病院の取組状況																															
病院名	取組状況																														
矢吹病院	患者サービスの向上を図るため、院内に投書箱を設置するとともに、投書のあった内容については検討し、病院運営にフィードバックした。また、接遇向上委員会や接遇研修会を開催し、職員の接遇向上に取り組んだ。																														
喜多方病院	「患者様の視点に立って」をテーマに研修会を実施した。																														
会津総合病院	来院者からの苦情や要望等を受け付けるため、院内各所に投書箱を設置し、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示板に掲示した。																														
宮下病院	<table><tr><td colspan="2">接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。</td></tr><tr><td>研修名</td><td>実施回数</td></tr><tr><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td><td>1 回</td></tr><tr><td>接遇研修（接遇の心構え、クレーム対応、ロールプレイ）</td><td>2 回</td></tr><tr><td>接遇研修（ロールプレイによる具体的なケーススタディ）</td><td>2 回</td></tr></table>	接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。		研修名	実施回数	転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	1 回	接遇研修（接遇の心構え、クレーム対応、ロールプレイ）	2 回	接遇研修（ロールプレイによる具体的なケーススタディ）	2 回																				
接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。																															
研修名	実施回数																														
転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	1 回																														
接遇研修（接遇の心構え、クレーム対応、ロールプレイ）	2 回																														
接遇研修（ロールプレイによる具体的なケーススタディ）	2 回																														
南会津病院	患者満足度調査の結果、外来の待ち時間に関する項目や入院の食事に関する項目において満足度が低かったことから、今後、改善に向けた状況の再分析と検討を実施したい。																														
大野病院	-																														
16	共通取組	外来待ち時間の短縮	外来予約システムの見直しを行うことで、予約診療の充実・拡充を図るとともに、外来待ち時間の短縮を推進し、患者さんが満足できる医療の提供に努める。	<table><tr><td colspan="2">各病院の取組状況</td></tr><tr><td>病院名</td><td>取組状況</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>午後の再診予約に続き、平成 24 年 5 月からは午前の診察について予約制を導入した。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に向けて工夫を行った。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>平成 21 年 3 月に導入したオーダリングシステムにより待ち時間が短縮した。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>内科及び外科について予約診察を実施した。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>外来待合室に隣接するふれあいギャラリーでの各種展示や、会計窓口のある中央フロアでの季節に応じた飾り付けなどを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>-</td></tr></table>	各病院の取組状況		病院名	取組状況	矢吹病院	午後の再診予約に続き、平成 24 年 5 月からは午前の診察について予約制を導入した。	喜多方病院	予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に向けて工夫を行った。	会津総合病院	平成 21 年 3 月に導入したオーダリングシステムにより待ち時間が短縮した。	宮下病院	内科及び外科について予約診察を実施した。	南会津病院	外来待合室に隣接するふれあいギャラリーでの各種展示や、会計窓口のある中央フロアでの季節に応じた飾り付けなどを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。	大野病院	-	3										
各病院の取組状況																															
病院名	取組状況																														
矢吹病院	午後の再診予約に続き、平成 24 年 5 月からは午前の診察について予約制を導入した。																														
喜多方病院	予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に向けて工夫を行った。																														
会津総合病院	平成 21 年 3 月に導入したオーダリングシステムにより待ち時間が短縮した。																														
宮下病院	内科及び外科について予約診察を実施した。																														
南会津病院	外来待合室に隣接するふれあいギャラリーでの各種展示や、会計窓口のある中央フロアでの季節に応じた飾り付けなどを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。																														
大野病院	-																														

17	宮下病院	無料送迎バスの効率的な運行	外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスの効率的な運行に努める。	<p>外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスを運行している。今後とも地域からの要望や利用状況を踏まえ、行き先や運行時刻の見直しを行うなど、効率的な運行に努めていく。</p> <p>【運行状況】</p> <table><tr><td>・三島町間方・浅岐・大谷方面</td></tr><tr><td>・三島町大石田・西方・沼田・川井・大登方面</td></tr><tr><td>・三島町滝谷・松原方面</td></tr><tr><td>・金山町川口・三島町早戸方面</td></tr><tr><td>・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面</td></tr><tr><td>・柳津町支所地区・麻生・三島町滝谷・松原方面</td></tr><tr><td>・柳津町小野川・麻生・三島町滝谷・松原方面</td></tr></table> <table><tr><th>項目</th><th>H24</th><th>H23</th><th>H22</th></tr><tr><td>迎え乗車数</td><td>1,954 人（ 1 日平均 8.8 人）</td><td>2,031 人（ 1 日平均 8.3 人）</td><td>2,050 人（ 1 日平均 8.4 人）</td></tr><tr><td>送り乗車数</td><td>1,868 人（ 1 日平均 8.4 人）</td><td>1,899 人（ 1 日平均 7.8 人）</td><td>1,986 人（ 1 日平均 8.1 人）</td></tr></table>	・三島町間方・浅岐・大谷方面	・三島町大石田・西方・沼田・川井・大登方面	・三島町滝谷・松原方面	・金山町川口・三島町早戸方面	・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面	・柳津町支所地区・麻生・三島町滝谷・松原方面	・柳津町小野川・麻生・三島町滝谷・松原方面	項目	H24	H23	H22	迎え乗車数	1,954 人（ 1 日平均 8.8 人）	2,031 人（ 1 日平均 8.3 人）	2,050 人（ 1 日平均 8.4 人）	送り乗車数	1,868 人（ 1 日平均 8.4 人）	1,899 人（ 1 日平均 7.8 人）	1,986 人（ 1 日平均 8.1 人）	4
・三島町間方・浅岐・大谷方面																								
・三島町大石田・西方・沼田・川井・大登方面																								
・三島町滝谷・松原方面																								
・金山町川口・三島町早戸方面																								
・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面																								
・柳津町支所地区・麻生・三島町滝谷・松原方面																								
・柳津町小野川・麻生・三島町滝谷・松原方面																								
項目	H24	H23	H22																					
迎え乗車数	1,954 人（ 1 日平均 8.8 人）	2,031 人（ 1 日平均 8.3 人）	2,050 人（ 1 日平均 8.4 人）																					
送り乗車数	1,868 人（ 1 日平均 8.4 人）	1,899 人（ 1 日平均 7.8 人）	1,986 人（ 1 日平均 8.1 人）																					
18		院内イベントの開催	入院患者や当院への来院者が快適で安らぎのある時を過ごしていただけるよう、四季折々の飾り付けを行うとともに、院内コンサートを開催するなど、「癒しのある空間」の提供に努める。	<p>院内イベント等の実施状況</p> <table><tr><td>5 月 12 日</td><td>看護の日イベント（参加者約 68 人）</td></tr><tr><td>7 月</td><td>七夕飾り</td></tr><tr><td>7 月 6 日</td><td>七夕コンサート（参加者約 40 人）</td></tr><tr><td>9 月</td><td>お月見飾り</td></tr><tr><td>12 月</td><td>クリスマス飾り</td></tr><tr><td>12 月 25 日</td><td>クリスマスコンサート（参加者約 40 人）</td></tr><tr><td>1 月</td><td>正月飾り</td></tr><tr><td>3 月</td><td>雛飾り</td></tr><tr><td>3 月 1 日</td><td>ひな祭りコンサート（参加者約 60 人）</td></tr></table>	5 月 12 日	看護の日イベント（参加者約 68 人）	7 月	七夕飾り	7 月 6 日	七夕コンサート（参加者約 40 人）	9 月	お月見飾り	12 月	クリスマス飾り	12 月 25 日	クリスマスコンサート（参加者約 40 人）	1 月	正月飾り	3 月	雛飾り	3 月 1 日	ひな祭りコンサート（参加者約 60 人）	5	
5 月 12 日	看護の日イベント（参加者約 68 人）																							
7 月	七夕飾り																							
7 月 6 日	七夕コンサート（参加者約 40 人）																							
9 月	お月見飾り																							
12 月	クリスマス飾り																							
12 月 25 日	クリスマスコンサート（参加者約 40 人）																							
1 月	正月飾り																							
3 月	雛飾り																							
3 月 1 日	ひな祭りコンサート（参加者約 60 人）																							

基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点）


【改革プラン方針】 良質で安全な医療を継続的に提供していくためには、健全な病院経営の確立が前提であることから、医師確保をはじめ、経営基盤の確立に向けた多様な取組を行う。		平成 24 年度取組状況及び自己評価																							
目標 1	収益の確保	目標値達成状況評価		取組状況評価																					
		【 5 】	目標値を上回った	【 5 】	極めて積極的に行われている																				
<p>〔医療機能の充実〕</p> <p>医師確保による医療機能の充実を図るとともに、適切な施設基準の取得や診療報酬請求漏れの防止、査定率減少に取り組む。</p> <p>患者数の増加を図るため、健康診断の充実や特定保健指導の取組を通じて、生活習慣病対策など予防医療に力を入れるとともに、透析などの特殊外来や訪問診療・訪問看護の充実に取り組む。</p> <p>〔先進医療機器の導入〕</p> <p>質の高い医療の提供や収益確保を図るため、計画的に先進医療機器の導入を行う。</p>		<p>1 医療機能の充実</p> <p>各病院の診療報酬査定委員会では、査定内容の分析を行うとともに、適正に請求できるケースについては再審査請求を行うなど、査定率の減少に努めた。</p> <p>平成 21 年 7 月から D P C 請求を開始し、在院日数の適正管理、クリニカルパスの作成拡大、術前検査等の見直し、注射等の手術中実施へのシフト、基準作成による抗生剤使用量の抑制、N S T 活動の推進による薬剤等使用量の抑制、抗生剤・高額薬剤・造影剤を中心としたジェネリック化の推進を行ってきた。その結果、<u>出来高算定ベースと比較して 1.7 億円の増収</u>となった。（会津総合病院）</p> <p>地域の方々が安心して療養生活を続けられるように訪問診療・訪問看護を実施した。 （宮下病院）〔再掲 P8〕</p> <p>医療機能の強化を図るため、高度医療、先進医療等に対応した医療機器等を整備した。</p> <p>【平成 24 年度に整備した主な医療機器】</p> <table><tr><td>病院名</td><td>品名</td><td>金額(千円)</td><td>概要</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>全身用 X 線 C T 装置〔更新〕</td><td>19,268</td><td>頭部や胸部、腹部に至る組織、臓器を画像化する装置。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>アンギオ装置〔新規〕</td><td>135,975</td><td>頭腹部の血管撮影、検査と血管内治療を行う装置。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>生化学自動分析装置〔更新〕</td><td>15,068</td><td>血液や尿等の体液成分を測定する装置。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>自動ジェット式超音波洗浄装置〔更新〕</td><td>13,860</td><td>ジェット洗浄と超音波洗浄により各種鋼製器具等の物品を洗浄する装置。</td></tr></table>				病院名	品名	金額(千円)	概要	矢吹病院	全身用 X 線 C T 装置〔更新〕	19,268	頭部や胸部、腹部に至る組織、臓器を画像化する装置。	会津総合病院	アンギオ装置〔新規〕	135,975	頭腹部の血管撮影、検査と血管内治療を行う装置。	宮下病院	生化学自動分析装置〔更新〕	15,068	血液や尿等の体液成分を測定する装置。	南会津病院	自動ジェット式超音波洗浄装置〔更新〕	13,860	ジェット洗浄と超音波洗浄により各種鋼製器具等の物品を洗浄する装置。
		病院名	品名	金額(千円)	概要																				
		矢吹病院	全身用 X 線 C T 装置〔更新〕	19,268	頭部や胸部、腹部に至る組織、臓器を画像化する装置。																				
		会津総合病院	アンギオ装置〔新規〕	135,975	頭腹部の血管撮影、検査と血管内治療を行う装置。																				
		宮下病院	生化学自動分析装置〔更新〕	15,068	血液や尿等の体液成分を測定する装置。																				
		南会津病院	自動ジェット式超音波洗浄装置〔更新〕	13,860	ジェット洗浄と超音波洗浄により各種鋼製器具等の物品を洗浄する装置。																				

〔外部意見の導入〕
多様な取組みにより経営基盤の確立を図るため、病院経営の専門家など外部の方の意見を積極的に取り入れる。

2 外部意見の導入
平成 25 年 1 月 11 日に県立病院事業経営評価委員会を開催し、平成 23 年度の取組状況等についてご審議いただいた結果、「概ね妥当である」との評価をいただいた。なお、同委員会より助言をいただいた具体の項目については、以下のとおり。

【主な助言項目】	
項目	内容
新たな経営戦略の検討について	強みを伸ばし特色ある病院作りを目指すとともに弱みを克服するための方策を検討するなど、新たな経営戦略を検討する必要がある。
地域に信頼される病院づくりについて	患者さんのみならず、そのご家族や面会者等から意見を聴取するなどニーズの把握に努め、それらに的確に対応しながら、地域に信頼される病院づくりを一層推進する必要がある。
地域との連携について	地域連携を推進するにあたっては、医療関係者等との間だけで考えるのではなく、地域住民も巻き込んで連携を推進していく必要がある。

共通目標指標

経常収支比率  *（経常収益（医業収益＋医業外収益））／経常費用（医業費用＋医業外費用）＊１００

H21実績 87.3%	H22実績 88.7%	H23実績 92.6%	H24目標 94%以上	H24実績 94.1%	H25目標 100%以上
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------

H23 実績、H24 実績は大野病院を除く。

目標 2	未収金の発生防止と早期回収の強化	目標値達成状況		取組状況																																																																																		
		【 5 】	目標値を上回った	【 4 】	積極的に行われている																																																																																	
<p>[医療相談の実施]</p> <p>新たな未収金発生の抑制を図るため、高額療養費制度などの周知徹底や医療費に関する面談を行うなど、全職員の共通認識の下で医療相談を積極的に実施する。</p> <p>[未収金マニュアルの活用]</p> <p>喫緊の課題である未収金残高の削減に向けて、県立病院医業未収金マニュアルを活用し、新たな未収金発生を防止するとともに、現存する未収金の早期回収に努める。</p> <p>[効果的な未収金対策の推進]</p> <p>未収金回収については、電話や文書での督促、自宅訪問などを継続的な実施により、早期回収に向けた効果的な対策を推進する。</p>		《平成 24 年度の取組状況》																																																																																				
		1 医療相談の実施																																																																																				
		高額療養費限度額適用制度の活用を推進するとともに、医療費の支払いに関する個別の相談を継続して実施した。																																																																																				
		2 未収金マニュアルの活用																																																																																				
		県立病院事業未収金マニュアル及び福島県立病院医業未収金支払督促事務取扱指針に基づく処理（電話や文書による督促、自宅訪問、法的手段など）を徹底し、未収金の発生防止及び収納促進に取り組んだ。																																																																																				
		【過年度医業未収金残高状況】（単位：件・千円）																																																																																				
		<table><tr><th rowspan="2">病院名</th><th colspan="3">H 24</th><th colspan="2">H 23</th><th colspan="2">H 22</th></tr><tr><th>実人数</th><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>21</td><td>120</td><td>2,167</td><td>73</td><td>1,355</td><td>49</td><td>1,964</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>7</td><td>9</td><td>74</td><td>14</td><td>162</td><td>25</td><td>795</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>592</td><td>968</td><td>38,422</td><td>1,218</td><td>46,003</td><td>1,402</td><td>52,041</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>6</td><td>39</td><td>446</td><td>30</td><td>1,010</td><td>17</td><td>289</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>155</td><td>600</td><td>11,949</td><td>593</td><td>12,108</td><td>536</td><td>9,863</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>不明</td><td>-</td><td>12,260</td><td>-</td><td>12,260</td><td>-</td><td>9,995</td></tr><tr><td>病院局</td><td>22</td><td>37</td><td>5,808</td><td>43</td><td>6,495</td><td>50</td><td>7,554</td></tr><tr><td>合 計</td><td>803</td><td>1,773</td><td>71,126</td><td>1,971</td><td>79,393</td><td>2,079</td><td>82,499</td></tr></table>						病院名	H 24			H 23		H 22		実人数	件数	金額	件数	金額	件数	金額	矢吹病院	21	120	2,167	73	1,355	49	1,964	喜多方病院	7	9	74	14	162	25	795	会津総合病院	592	968	38,422	1,218	46,003	1,402	52,041	宮下病院	6	39	446	30	1,010	17	289	南会津病院	155	600	11,949	593	12,108	536	9,863	大野病院	不明	-	12,260	-	12,260	-	9,995	病院局	22	37	5,808	43	6,495	50	7,554	合 計	803	1,773	71,126	1,971	79,393	2,079	82,499
病院名	H 24			H 23		H 22																																																																																
	実人数	件数	金額	件数	金額	件数	金額																																																																															
矢吹病院	21	120	2,167	73	1,355	49	1,964																																																																															
喜多方病院	7	9	74	14	162	25	795																																																																															
会津総合病院	592	968	38,422	1,218	46,003	1,402	52,041																																																																															
宮下病院	6	39	446	30	1,010	17	289																																																																															
南会津病院	155	600	11,949	593	12,108	536	9,863																																																																															
大野病院	不明	-	12,260	-	12,260	-	9,995																																																																															
病院局	22	37	5,808	43	6,495	50	7,554																																																																															
合 計	803	1,773	71,126	1,971	79,393	2,079	82,499																																																																															
		各年度 3 月 31 日現在 病院局は廃止病院分																																																																																				
		3 効果的な未収金対策の推進																																																																																				
		平成 25 年 2 月 26 日に未収金担当者等会議を開催し、未収金の効率的な回収方法等について意見交換を行い、情報の共有化を図った。																																																																																				
		共通目標指標																																																																																				
		過年度未収金残高																																																																																				
		<div><div>H21実績 8 8 百万円</div><div>H22実績 8 2 百万円</div><div>H23実績 7 9 百万円</div><div>H24目標 7 5 百万円</div><div>H24実績 7 1 百万円</div><div>H25目標 7 2 百万円</div></div>																																																																																				

目標 3	費用の見直し	目標値達成状況		取組状況																			
		【 5 】	目標値を上回った	【 4 】	積極的に行われている																		
<p>[人件費の抑制]</p> <p>更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。</p> <p>[診療材料・医薬品の費用削減]</p> <p>更なる材料費の削減を図るため、平成 20 年度に導入した新型 S P D により、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。</p> <p>[日常的な経費節減]</p> <p>日常的な経費の削減を図るため、光熱水費の更なる節減や価格変動に応じた契約単価の見直しによる燃料費の削減、委託業務における業務内容の見直しなどを行う。</p>		《平成 24 年度の取組状況》																					
		1 人件費の抑制																					
		患者数の動向や病棟再編の実施状況等に応じた看護職員、医療技術職員及び事務職員等の配置見直しを行うなど定員管理の適正化に努め、総人件費の抑制を図った。																					
		<table><tr><td>項目</td><td>H 24</td><td>H 23</td><td>H 22</td></tr><tr><td>給与費</td><td>7,508,222 千円</td><td>7,350,206 千円</td><td>7,746,207 千円</td></tr><tr><td>うち退職手当除く</td><td>6,242,376 千円</td><td>6,578,029 千円</td><td>6,981,109 千円</td></tr><tr><td>正規職員数</td><td>667 人</td><td>697 人</td><td>735 人</td></tr></table>		項目	H 24	H 23	H 22	給与費	7,508,222 千円	7,350,206 千円	7,746,207 千円	うち退職手当除く	6,242,376 千円	6,578,029 千円	6,981,109 千円	正規職員数	667 人	697 人	735 人	本局職員含む、準備室教員を除く。			
		項目	H 24	H 23	H 22																		
		給与費	7,508,222 千円	7,350,206 千円	7,746,207 千円																		
		うち退職手当除く	6,242,376 千円	6,578,029 千円	6,981,109 千円																		
		正規職員数	667 人	697 人	735 人																		
		2 診療材料・医薬品の費用削減																					
		医薬品・診療材料の購入費は、大きな比重を占めていることから、S P D 導入（医薬品・診療材料の価格交渉や一括発注、診療材料の供給・搬送、在庫管理を委託）により、適正な在庫管理や採用品目の見直しに努めるなど、業務の効率化及び経費の削減に取り組んだ。																					
<table><tr><td>項目</td><td>H 24</td><td>H 23</td><td>H 22</td></tr><tr><td>材料費</td><td>1,857,892 千円</td><td>1,611,545 千円</td><td>1,606,525 千円</td></tr><tr><td>うち薬品費</td><td>1,043,323 千円</td><td>935,989 千円</td><td>924,079 千円</td></tr><tr><td>うち診療材料費</td><td>729,791 千円</td><td>586,813 千円</td><td>575,723 千円</td></tr><tr><td>S P D 効果</td><td>18,118 千円</td><td>26,251 千円</td><td>10,250 千円</td></tr></table>		項目	H 24	H 23	H 22	材料費	1,857,892 千円	1,611,545 千円	1,606,525 千円	うち薬品費	1,043,323 千円	935,989 千円	924,079 千円	うち診療材料費	729,791 千円	586,813 千円	575,723 千円	S P D 効果	18,118 千円	26,251 千円	10,250 千円	* S P D 効果 = 購入額削減額 - 委託額	
項目	H 24	H 23	H 22																				
材料費	1,857,892 千円	1,611,545 千円	1,606,525 千円																				
うち薬品費	1,043,323 千円	935,989 千円	924,079 千円																				
うち診療材料費	729,791 千円	586,813 千円	575,723 千円																				
S P D 効果	18,118 千円	26,251 千円	10,250 千円																				
3 日常的な経費削減																							
委託料については、医療機器の保守料など仕様の見直しを行い委託額の縮減に取り組んだ。																							
<table><tr><td>項目</td><td>H 24</td><td>H 23</td><td>H 22</td></tr><tr><td>経費</td><td>1,995,751 千円</td><td>1,884,796 千円</td><td>1,915,709 千円</td></tr><tr><td>うち消耗品費</td><td>44,156 千円</td><td>48,297 千円</td><td>51,404 千円</td></tr><tr><td>うち光熱水費</td><td>129,003 千円</td><td>120,846 千円</td><td>158,701 千円</td></tr><tr><td>うち委託料</td><td>847,441 千円</td><td>814,509 千円</td><td>965,734 千円</td></tr></table>		項目	H 24	H 23	H 22	経費	1,995,751 千円	1,884,796 千円	1,915,709 千円	うち消耗品費	44,156 千円	48,297 千円	51,404 千円	うち光熱水費	129,003 千円	120,846 千円	158,701 千円	うち委託料	847,441 千円	814,509 千円	965,734 千円		
項目	H 24	H 23	H 22																				
経費	1,995,751 千円	1,884,796 千円	1,915,709 千円																				
うち消耗品費	44,156 千円	48,297 千円	51,404 千円																				
うち光熱水費	129,003 千円	120,846 千円	158,701 千円																				
うち委託料	847,441 千円	814,509 千円	965,734 千円																				
共通目標指標																							
職員給与比率（一般病院）		* 職員給与費 / 医療収益 * 1 0 0																					
H 21 実績 1 0 6 . 9 %		H 22 実績 9 8 . 4 %	H 23 実績 9 2 . 1 %	H 24 目標 8 5 % 以下	H 24 実績 8 2 . 8 %	H 25 目標 8 3 % 以下																	
		H23 実績、H24 実績は大野病院を除く。																					

目標１：収益の確保（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																					
1	共通取組	常勤医師の確保	関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保することで、安定的な診療体制の確立を図る。	常勤医師（平成 25 年 3 月 1 日現在） <table><tr><th>病院名</th><th>医師数</th><th>内 訳</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>6 人</td><td>精神科 5、内科 1</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>3 人</td><td>内科 2、外科 1</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>36 人</td><td>内科 21、外科 3、整形外科 4、神経精神科 2、皮膚科 1、耳鼻科 2、麻酔科 1、病理診断科 1、歯科 1、（研修医 1） 準備室教員含む、研修医含めない。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>5 人</td><td>内科 3、外科 2</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>12 人</td><td>内科 5、外科 2、整形外科 2、小児科 1、耳鼻科 1、麻酔科 1</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>0 人</td><td>休診中</td></tr></table>	病院名	医師数	内 訳	矢吹病院	6 人	精神科 5、内科 1	喜多方病院	3 人	内科 2、外科 1	会津総合病院	36 人	内科 21、外科 3、整形外科 4、神経精神科 2、皮膚科 1、耳鼻科 2、麻酔科 1、病理診断科 1、歯科 1、（研修医 1） 準備室教員含む、研修医含めない。	宮下病院	5 人	内科 3、外科 2	南会津病院	12 人	内科 5、外科 2、整形外科 2、小児科 1、耳鼻科 1、麻酔科 1	大野病院	0 人	休診中	4
病院名	医師数	内 訳																								
矢吹病院	6 人	精神科 5、内科 1																								
喜多方病院	3 人	内科 2、外科 1																								
会津総合病院	36 人	内科 21、外科 3、整形外科 4、神経精神科 2、皮膚科 1、耳鼻科 2、麻酔科 1、病理診断科 1、歯科 1、（研修医 1） 準備室教員含む、研修医含めない。																								
宮下病院	5 人	内科 3、外科 2																								
南会津病院	12 人	内科 5、外科 2、整形外科 2、小児科 1、耳鼻科 1、麻酔科 1																								
大野病院	0 人	休診中																								
2	矢吹病院	看護補助加算 1 の算定	看護補助加算 1 の算定を開始し、より高い入院基本料等加算の取得により、収益増を図る。	平成 20 年 11 月より「看護補助加算 2」から「看護補助加算 1」に上位ランクの届出を行い算定している。	5																					
3		外来患者に対する精神科作業療法の実施	精神科作業療法については、入院患者を対象に実施しているが、今後、外来患者のニーズを把握し、外来部門と O T 部門の連携方法等の具体策について検討する。	平成 22 年 4 月から開始した外来の精神科作業療法について、平成 24 年度も引き続き実施した。 <table><tr><th>項目</th><th>H 24</th><th>H 23</th><th>H 22</th></tr><tr><td>外来の精神科作業療法患者数</td><td>451 人</td><td>381 人</td><td>141 人</td></tr></table>	項目	H 24	H 23	H 22	外来の精神科作業療法患者数	451 人	381 人	141 人	5													
項目	H 24	H 23	H 22																							
外来の精神科作業療法患者数	451 人	381 人	141 人																							
4	会津総合病院	コメディカルスタッフの確保	リハビリテーションに関する施設基準への対応を図るため、コメディカルスタッフ（ O T（作業療法士）・ P T（理学療法士））の確保を図る。	平成 24 年度は O T、 P T の採用には至らなかった。	3																					
5		D P C ・電子カルテ・クリニカルパスの有効活用等による入院収益の増	疾病ごとの入院収入と投下医療資源についての管理を強化し、収益増を図るため、電子カルテ機能を十分に活用するとともに、クリニカルパスの作成見直しを行う。	平成 24 年度の D P C 導入による増収効果（出来高算定ベースとの比較）は約 1.7 億円であり、対前年度で 0.4 億円の増となった。 平成 24 年度の手術件数は 2,573 件であり、対前年度で 921 件の増となった。	5																					
6	宮下病院	診療科目の充実（再掲）	診療科目の充実を図るなど、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、県内で高齢化率が一番高い地域の特性に的確に対応した医療を提供。	県立医科大学等との連携を強化しながら、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。〔再掲 P 8〕	4																					
7		訪問診療の充実による外来患者の確保	訪問診療等の充実により、患者サービスの向上や外来患者の確保を図る。	訪問診療や訪問看護、職員が地域に出向いて行う活動（医療講演会や出前講座等）を積極的に展開し、外来患者数の維持・確保に努めた。 <table><tr><th>項目</th><th>H 24</th><th>H 23</th><th>H 22</th></tr><tr><td>訪問診療の件数</td><td>121 件</td><td>131 件</td><td>57 件</td></tr><tr><td>外来の延患者数</td><td>16,107 人</td><td>17,817 人</td><td>18,439 人</td></tr><tr><td>外来の新患者数</td><td>1,298 人</td><td>1,260 人</td><td>1,287 人</td></tr></table>	項目	H 24	H 23	H 22	訪問診療の件数	121 件	131 件	57 件	外来の延患者数	16,107 人	17,817 人	18,439 人	外来の新患者数	1,298 人	1,260 人	1,287 人	4					
項目	H 24	H 23	H 22																							
訪問診療の件数	121 件	131 件	57 件																							
外来の延患者数	16,107 人	17,817 人	18,439 人																							
外来の新患者数	1,298 人	1,260 人	1,287 人																							
8		無料送迎バスの効率的な運行（再掲）	外来患者の利便性向上や収益増に向けて、無料送迎バスの効率的な運行を図る。	無料送迎バスを運行し、患者さんの通院の利便性の向上を図った。〔再掲 P 15〕	4																					

行動計画取組状況（基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点））

9	南会津病院	D P C 病院への移行による収益の確保	D P C（包括支払制度）病院への移行に向けて、引き続きD P C 準備病院としてデータの収集等を行う。	必ずしも急性期患者のみを対象とするわけではないという当院の性格上、当面D P C 対象病院となることは収益の面からみても不適當であると判断し、平成 22 年度に準備病院を辞退した。	-
10		透析器機の増設による透析機能の強化（再掲）	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	南会津地域の維持透析の充実を図るため、透析機器を 7 台増設して、計 19 台とした。〔再掲 P17〕	3
11	大野病院	薬剤管理指導の効率的な実施	収益の確保を図るため、薬剤管理指導を効率的に実施する。	-	-
12		亜急性期入院医療管理料の導入	新たな収入の確保を図るため、急性期治療を経過した患者に対し、在宅復帰支援に向けた亜急性期病床を設置する。	-	-
13	病院局	県立病院収益確保プロジェクトの実施	診療報酬制度改定やD P C 導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。	平成 26 年度予算・決算から本格適用される新会計制度への移行を見据え、公認会計士を講師に招いて、本局職員及び各病院担当者を対象とした研修会を開催した。当日は、講師より制度の趣旨やポイントについて分かりやすい説明があったほか、活発な質疑応答が行われるなど、新会計制度に関する理解と知識を深めることができた。	3
14		未利用財産の売却	病院事業財産を活用することにより収益確保を図るため、公舎跡地等未利用財産の売却を進める。	未利用財産の購入希望者を募集したものの、売却には至らなかった。	3
15		外部意見による経営評価	県立病院事業の経営改善に向けた取組状況について、有識者で構成される第三者機関である県立病院経営評価委員会の評価を受けるなど、多様な意見を取り入れながら一層の経営健全化を図る。	平成 25 年 1 月 11 日に県立病院事業経営評価委員会を開催し、平成 23 年度の取組状況等についてご審議いただいた結果、「概ね妥当である」との評価をいただいた。〔再掲 P 21〕	4

目標２：未収金の発生防止と早期回収の強化（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																		
16	共通取組	未収金の発生防止と早期回収の強化	医療相談室等と連携しながら、未収金となるおそれのある患者に早期に接触し未収金の発生を防止する。 未収金については、定期的に文書による納付依頼や督促、電話や訪問による納付交渉等を行い早期回収に努める。	<table><tr><th colspan="2">各病院の取組状況</th></tr><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>会計窓口との連携を図り、滞納者が窓口に来た際には、医事担当の職員が出向き督促を行った。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用による負担軽減など、患者さんの立場に立った納入相談を実施した。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>事務局職員が電話督促や自宅訪問などを実施した。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>電話による督促、督促状・催告状の送付などを実施した。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>高額な医療費が見込まれる入院患者については、医事の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達し、高額療養費事前申請制度等の説明等を行うなど、高額未収金の発生防止に努めた。 県外患者が増加するゴールデンウィークや年末年始は、医療費計算・収納業務を外部委託し、受診日当日の収納に努めた。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>-</td></tr><tr><td>本局</td><td>平成 19 年度より未収金徴収嘱託員 1 名を配置し、主に廃止病院の未収金徴収にあっている。</td></tr></table>	各病院の取組状況		病院名	実施状況	矢吹病院	会計窓口との連携を図り、滞納者が窓口に来た際には、医事担当の職員が出向き督促を行った。	喜多方病院	医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用による負担軽減など、患者さんの立場に立った納入相談を実施した。	会津総合病院	事務局職員が電話督促や自宅訪問などを実施した。	宮下病院	電話による督促、督促状・催告状の送付などを実施した。	南会津病院	高額な医療費が見込まれる入院患者については、医事の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達し、高額療養費事前申請制度等の説明等を行うなど、高額未収金の発生防止に努めた。 県外患者が増加するゴールデンウィークや年末年始は、医療費計算・収納業務を外部委託し、受診日当日の収納に努めた。	大野病院	-	本局	平成 19 年度より未収金徴収嘱託員 1 名を配置し、主に廃止病院の未収金徴収にあっている。	4
各病院の取組状況																							
病院名	実施状況																						
矢吹病院	会計窓口との連携を図り、滞納者が窓口に来た際には、医事担当の職員が出向き督促を行った。																						
喜多方病院	医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用による負担軽減など、患者さんの立場に立った納入相談を実施した。																						
会津総合病院	事務局職員が電話督促や自宅訪問などを実施した。																						
宮下病院	電話による督促、督促状・催告状の送付などを実施した。																						
南会津病院	高額な医療費が見込まれる入院患者については、医事の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達し、高額療養費事前申請制度等の説明等を行うなど、高額未収金の発生防止に努めた。 県外患者が増加するゴールデンウィークや年末年始は、医療費計算・収納業務を外部委託し、受診日当日の収納に努めた。																						
大野病院	-																						
本局	平成 19 年度より未収金徴収嘱託員 1 名を配置し、主に廃止病院の未収金徴収にあっている。																						
17	病院局	未収金担当者会議の開催	実務者レベルの会議を定期的に行い、実効性のある効果的な滞納防止策や回収策を検討し、各病院の共通的な取組みとして実施する。	平成 25 年 2 月 26 日に未収金担当者等会議を開催し、未収金の効率的な回収方法等について意見交換を行い、情報の共有化を図った。〔再掲 P 22〕	4																		

目標 3：費用の見直し(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価										
18	共通取組	業務委託内容の見直しによる委託費削減	委託業務の契約内容等についてゼロベースで見直しを行うとともに、入札方式や複数年契約の検討、医療機器の調達における保守管理を考慮した契約実施などにより、委託費用の削減に取り組む。	各病院の取組状況	3										
		<table><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>入院患者数の減少に伴う寝具設備の納入減や CT 装置更新による点検回数の減等により、委託料が対前年度比で 1,304 千円の減となった。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>平成 24 年 12 月の病棟閉鎖に伴い、看護助手の委託業務短縮等、委託業務全般の見直しを実施する等の節減に努めた結果、委託料が対前年度比で 4,598 千円の減となった。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>患者増に伴う検査委託費用等の増により、委託料が対前年度比で 13,084 千円の増となった。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>建築物・建築設備定期点検や病院機能評価受審費用等の増により、委託料が対前年度比で 6,248 千円の増となった。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>機器更新時に保証期間内の保守契約を見合わせる等の節減を図ったが、電子カルテ導入に伴う管理委託費用等の増により、委託料が対前年度比で 14,789 千円の増となった。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>-</td></tr></table>		病院名		実施状況	矢吹病院	入院患者数の減少に伴う寝具設備の納入減や CT 装置更新による点検回数の減等により、委託料が対前年度比で 1,304 千円の減となった。	喜多方病院	平成 24 年 12 月の病棟閉鎖に伴い、看護助手の委託業務短縮等、委託業務全般の見直しを実施する等の節減に努めた結果、委託料が対前年度比で 4,598 千円の減となった。	会津総合病院	患者増に伴う検査委託費用等の増により、委託料が対前年度比で 13,084 千円の増となった。	宮下病院	建築物・建築設備定期点検や病院機能評価受審費用等の増により、委託料が対前年度比で 6,248 千円の増となった。	南会津病院
病院名	実施状況														
矢吹病院	入院患者数の減少に伴う寝具設備の納入減や CT 装置更新による点検回数の減等により、委託料が対前年度比で 1,304 千円の減となった。														
喜多方病院	平成 24 年 12 月の病棟閉鎖に伴い、看護助手の委託業務短縮等、委託業務全般の見直しを実施する等の節減に努めた結果、委託料が対前年度比で 4,598 千円の減となった。														
会津総合病院	患者増に伴う検査委託費用等の増により、委託料が対前年度比で 13,084 千円の増となった。														
宮下病院	建築物・建築設備定期点検や病院機能評価受審費用等の増により、委託料が対前年度比で 6,248 千円の増となった。														
南会津病院	機器更新時に保証期間内の保守契約を見合わせる等の節減を図ったが、電子カルテ導入に伴う管理委託費用等の増により、委託料が対前年度比で 14,789 千円の増となった。														
大野病院	-														
19		消耗品費や光熱水費等の削減	消耗品や光熱水費等の経費削減を図るため、職員の意識改革を進める。	各病院の取組状況	5										
		<table><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>デマンドコントロールによる電力料金の削減や水圧調節による節水等に取り組んだものの、光熱水費が対前年度比で 535 千円の増となった。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>平成 24 年 12 月の病棟閉鎖及び平成 25 年 3 月の閉院予定を見据え、経費節減に取り組んだ結果、消耗品費が対前年度比で 2,403 千円の減となった。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>気温に応じて空調温度を調整するなど、燃料（A 重油）等の使用量削減に努めたものの、光熱水費が対前年度比で 7,924 千円の増となった。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>冷房の電源のオンオフをこまめに行うなど経費節減に取り組んだ結果、光熱水費は対前年度比で 422 千円の減となった。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>空調温度の調整により数量は減少したが、灯油単価の上昇により光熱水費は対前年度比で 1,350 千円の増となった。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>-</td></tr></table>		病院名		実施状況	矢吹病院	デマンドコントロールによる電力料金の削減や水圧調節による節水等に取り組んだものの、光熱水費が対前年度比で 535 千円の増となった。	喜多方病院	平成 24 年 12 月の病棟閉鎖及び平成 25 年 3 月の閉院予定を見据え、経費節減に取り組んだ結果、消耗品費が対前年度比で 2,403 千円の減となった。	会津総合病院	気温に応じて空調温度を調整するなど、燃料（A 重油）等の使用量削減に努めたものの、光熱水費が対前年度比で 7,924 千円の増となった。	宮下病院	冷房の電源のオンオフをこまめに行うなど経費節減に取り組んだ結果、光熱水費は対前年度比で 422 千円の減となった。	南会津病院
病院名	実施状況														
矢吹病院	デマンドコントロールによる電力料金の削減や水圧調節による節水等に取り組んだものの、光熱水費が対前年度比で 535 千円の増となった。														
喜多方病院	平成 24 年 12 月の病棟閉鎖及び平成 25 年 3 月の閉院予定を見据え、経費節減に取り組んだ結果、消耗品費が対前年度比で 2,403 千円の減となった。														
会津総合病院	気温に応じて空調温度を調整するなど、燃料（A 重油）等の使用量削減に努めたものの、光熱水費が対前年度比で 7,924 千円の増となった。														
宮下病院	冷房の電源のオンオフをこまめに行うなど経費節減に取り組んだ結果、光熱水費は対前年度比で 422 千円の減となった。														
南会津病院	空調温度の調整により数量は減少したが、灯油単価の上昇により光熱水費は対前年度比で 1,350 千円の増となった。														
大野病院	-														

20		新型ＳＰＤによる医療費等の削減	材料費の削減を図るため、平成２０年度に導入した新型ＳＰＤにより、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。	各病院の取組状況		4
				病院名	実施状況	
				矢吹病院	適正な材料選択、在庫管理、減耗防止に努めた。	
				喜多方病院	薬事委員会において後発医薬品採用の検討を行い可能なものから順次採用を進めた。総務管理の診療材料の定数配置品目については、毎週在庫の現物確認を行い効率的な発注に努めた。	
				会津総合病院	薬品及び診療材料の購入にあたっては、平成 20 年度から新型 SPD が導入され、引き続き廉価購入に努めた。	
				宮下病院	他病院で使用している安価な診療材料に切り替えたほか、期限切れの近い薬品を院内に周知し、その使用を促進した。	
				南会津病院	価格交渉（薬品 3 回、診療材料 2 回）を行い、薬品、診療材料ともに廉価購入と在庫の圧縮に努めた。 毎月薬事委員会を開催し、同種同効薬の見直しや不働在庫の積極的利用による在庫の整理を行った。	
				大野病院	-	
21	喜多方病院	病棟再編の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病棟再編を実施する。	平成 21 年 4 月より、病床数を 135 床から 50 床に削減し、１病棟体制とした。		-
22	宮下病院 南会津病院	病床削減の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病床数の削減を実施する。	平成 21 年 4 月より、病床数を 55 床から 32 床へ削減した。（宮下病院） 平成 21 年 3 月に、病床数を 150 床から 100 床へ削減した。（南会津病院）		-
23	病院局	総人件費の抑制	更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。	患者数の動向や病棟再編の実施状況等に応じた看護職員、医療技術職員及び事務職員等の配置見直しを行うなど定員管理の適正化に努め、総人件費の抑制を図った。〔再掲 P23〕		4

基本方針3：医療提供体制の充実強化（病院の体制整備の視点）

【改革プラン方針】		平成 24 年度取組状況及び自己評価				
目標 1	診療体制及び経営基盤の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価		
		【 5 】	目標値を上回った	【 5 】	極めて積極的に行われている	
<p>[医師確保等の充実強化]</p> <p>県立医科大学等との連携や医師紹介事業者の活用、公募による医師確保策の充実強化を図るとともに、医師の給与の見直しや勤務環境の改善などの処遇改善を行い、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。</p> <p>また、医師確保緊急対策プログラム（ ）に基づき、医師確保に取り組む。</p> <p>県の地域医療対策協議会で検討され、平成 21 年度から実施</p> <p>[医療の質と調和した経営改善]</p> <p>「医療の質」、「経営の質」の両面においてバランスがとれた病院経営を進めるため、5つの視点（患者さんの視点・健全な病院経営の視点・病院の体制整備の視点・人材育成の視点・地域連携の視点）に沿った基本方針に基づく経営改革を実施する。</p>		平成 24 年度の取組状況				
		1 医師確保等の充実強化について				
		安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等との連携の下、常勤医師の確保に努めた。				
		【常勤医師数】（単位：人）				
		病院名	H 24	H 23		
		矢吹病院	6	6		
		喜多方病院	3	4		
		会津総合病院	36	31		
		宮下病院	5	6		
		南会津病院	12	14		
大野病院	0	1				
合計	62	62				
		各年度 3 月 1 日現在				
		準備室教員含む、研修医除く				
		各病院の医師より、適宜意見を聴取するなど、医師が安心して働ける勤務環境の整備や診療機能の充実などに努めた。なお、平成 24 年度においては、8 月に会津総合病院、宮下病院、南会津病院の医師と病院事業管理者との意見交換会を実施している。				
		2 医療の質と調和した経営改善について				
		各病院の事務次長等を構成員とする「病院経営検討会」を平成 24 年 11 月 30 日に開催し、各病院における重点取組や改革プラン取組状況などについて、情報共有や意見交換を行った。				
		共通目標指標				
		常勤医師数				
		<div><div>H 21実績</div><div>5 8 人</div><div>H 22実績</div><div>6 4 人</div><div>H 23実績</div><div>6 1 人</div><div>H 24目標</div><div>6 2 人</div><div>H 24実績</div><div>6 2 人</div><div>H 25目標</div><div>2 3 人</div></div>				
		H23 実績は大野病院除く				

目標 2	医療安全対策の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価			
		【 2 】	目標値を下回った	【 4 】	積極的に行われている		
<p>[不断の意識啓発]</p> <p>医療の安全性を高め、患者さんにより信頼される病院となるため、職員全員の医療事故防止に向けた一層の意識啓発と病院全体の危機管理を不断に取り組む。</p> <p>[組織的な体制整備]</p> <p>医療安全を総合的に推進する医療安全担当の配置、医療事故防止マニュアルの不断の見直し、医療事故防止対策委員会で医療事故の発生防止対策の検討、医療事故防止に関する研修会の定期的な開催など、医療安全対策に病院全体で組織的に取り組み、安全な医療の確保を図る。</p> <p>[マニュアルの周知徹底]</p> <p>危機発生時に迅速かつ的確な対応が図られるよう、普段から研修会等において、医療事故防止マニュアルの周知徹底に努める。</p>		平成 24 年度の取組状況					
		1 医療安全対策の推進について					
		医療安全担当の配置		定期的に院内ラウンドを行い、医療事故や院内感染を防止し医療安全対策を組織的に推進した。			
		医療安全対策委員会		アクシデント、インシデント事案について、発生事例の分析や今後の対応策について協議した。			
		院内感染対策委員会		新型インフルエンザ、感染予防等の対策について検討を行った。			
		医療事故防止対策研修会		第一線で実務に従事している外部講師を迎え、職員の医療安全に対する意識向上と医療安全の強化に努めた。 研修会を複数回開催することで、安全な業務遂行能力の向上及び医療安全に関する職員の意識向上を促した。			
		各病院の医療安全担当責任者で構成される「医療安全対策プロジェクトチーム」で、リスク情報収集や調査分析を行い、医療事故防止対策の強化に取り組んだ。 医療安全の推進と患者サービスの向上を目的に医療安全研修会を開催した。					
		【医療安全研修会参加率】					
				H24	H23	H22	
		矢吹病院		100%	100%	100%	
喜多方病院		25%	49%	38%			
会津総合病院		30.4%	30%	36.3%			
宮下病院		50%	60%	62%			
南会津病院		92.4%	82.9%	96.5%			
		共通目標指標					
		医療安全研修参加率					
		H 21 実績 7 6 . 1 %	H 22 実績 6 6 . 6 %	H 23 実績 6 4 . 4 %	H 24 目標 9 0 % 以上	H 24 実績 5 9 . 6 %	H 25 目標 9 0 % 以上

目標１：診療体制及び経営基盤の強化（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
1	共通取組	常勤医師の確保（再掲）	安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保する。	安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等との連携の下、常勤医師の確保に努めた。〔再掲 P 29〕	4
2	会津総合病院 宮下病院	臨床研修医の受入	県立医科大学や自治医科大学等との連携の下、臨床研修病院として研修医の受入を行う。	自治医科大学卒の研修医 1 名を受け入れた。（会津総合病院） 県立医科大学臨床研修医（卒後 2 年目・地域医療）1 名を受け入れた。（宮下病院）	5
3	宮下病院	家庭医プログラムに基づく実習生の受入	県立医科大学の家庭医プログラムに基づき、ホームステイにより実習生の受入を行う。	平成 21 年度以降、実習生の受入実績がない。	3
4	宮下病院	へき地医療体験研修等の受入	自治医科大学福島県人会のへき地医療体験研修を積極的に支援することで、本県出身の医学部生への将来的なへき地医療従事の動機付けとなることを目指す。	獨協医科大学の地域保健実習に同大学医学部生 3 名が参加した。（会津保健福祉事務所からの依頼） へき地医療体験研修（冬期）に医学部生 5 名が参加した。	5
5	南会津病院	研修病院としての役割	自治医科大学の実施する院外 B S L 研修の受入を行う。	卒後臨床研修の受入実績はなかったものの、医学部生の研修の受入を積極的に行った。	3
6	病院局	医科大学との連携による医師確保の強化	県立医科大学や自治医科大学等との連携強化、近隣県や東京都内の医科大学への医師派遣依頼などにより、医師確保対策の強化を図る。また、県の医師確保緊急対策プログラムに基づき、医師確保を図る。	県立医科大学や自治医科大学等へ医師の派遣要請を行った。 県立医科大学の支援を受けて、会津医療センターの準備室教員として、会津総合病院への医師確保を行った。 医師確保等推進事業（医師紹介業者及び医師求人サイトの活用等）やドクターバンク事業（今すぐから将来まで県立病院へ勤務する医師を全国的に募集）を展開し、医師確保に努めた。	4
7		公募による医師確保	医師紹介事業者の活用、インターネットを始め様々な広報媒体の活用、本県に興味を持っている県外在住者への P R、公募による医師確保対策の強化を図る。	ホームページや雑誌をはじめ医師紹介事業者の活用等、様々な広報媒体の活用を行い、公募による医師確保対策の強化を図った結果、1 名を採用することができた。（平成 25 年 4 月より矢吹病院において勤務）	5
8		医師の処遇改善	県立病院に勤務する医師について、給与の見直し、医療事務作業補助者の配置などによる勤務負担の軽減、研修制度の充実など処遇改善を図り、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。	各病院の医師より適宜意見を徴するなど、現場医師の意見を把握しながら、顔の見える関係の構築を図り、魅力ある病院づくりを行った。	4
9		中長期的な医師確保	将来に向けた医師の確保を図るため、医学部生への修学資金の貸与、臨床研修医の受入れなどを行う。	平成 22 年度から保健福祉部の修学資金制度と統合し、「へき地医療等医師確保修学資金」を創設した。 なお、従来貸与を受けていた医学部学生については、これまで同様貸与を継続している。	4
10		目標管理の実施	5 つの視点に沿った基本方針を踏まえ、良質な医療の提供と健全な病院経営の実現に向けた取組みを実施していくとともに、定期的に取り組みの進捗状況や課題の検討などを行う。	平成 21 年 5 月に策定した改革プランの進捗管理を行うために、県立病院事業経営評価委員会委員による助言を得ながら評価・検討を行った。	4

目標２：医療安全対策の強化（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																																																																
11	共通取組	専任の医療安全担当による管理体制の強化や研修会の開催等による安全対策の強化	専任の医療安全担当を配置する。 医療安全対策委員会等の活動を強化して、医療事故防止や院内感染防止に関する情報の収集やアクシデント・インシデント事例の検証等を行う。 定期的に医療事故防止のための研修会を開催し、マニュアルの見直しや改善事項等について職員への指示を徹底するなど、医療の安全確保に総合的かつ組織的に取り組む。	<div>取組状況</div> <table><thead><tr><th>病院名</th><th colspan="3">内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>矢吹病院</td><td colspan="3">医療安全研修会の参加率は100%となっている。 インシデント・アクシデントの報告があった場合は、現状の把握、原因の分析、対策等の検討を行うとともに、その内容について職員に周知し情報共有を図った。 院内感染症対策委員会は毎月1回開催し、感染症予防等対策について検討した。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td colspan="3">医療安全及び院内感染の対策会議は、それぞれ毎月開催し、医療安全に関する事例検討や注意すべき院内感染等について、各部署に周知徹底を図った。</td></tr><tr><td rowspan="8">会津総合病院</td><td colspan="3">医療安全研修会を開催した。</td></tr><tr><td>内容</td><td>参加者数</td><td>参加率</td></tr><tr><td>輸液ポンプ・シリンジポンプの安全使用</td><td>53人</td><td>21.1%</td></tr><tr><td>BLS（一次救命処置）研修</td><td>198人</td><td>78.8%</td></tr><tr><td>内視鏡検査時の休薬について</td><td>157人</td><td>62.5%</td></tr><tr><td>緊急コール</td><td>46人</td><td>18.3%</td></tr><tr><td>麻薬取り扱い講習会</td><td>85人</td><td>33.8%</td></tr><tr><td colspan="3">医療安全ポケットマニュアルを作成し、平成23年5月より全職員へ配布した。</td></tr><tr><td rowspan="6">宮下病院</td><td colspan="3">医療安全研修会を開催した。</td></tr><tr><td>内容</td><td>参加者数</td><td>参加率</td></tr><tr><td>多数傷病者発生時の初動、救急デモンストラーション展示</td><td>21人</td><td>51%</td></tr><tr><td>赤血球型、血液製剤の選択</td><td>16人</td><td>38%</td></tr><tr><td>心肺停止症例、人工呼吸のデモンストラーション</td><td>23人</td><td>55%</td></tr><tr><td>実例から学ぶ医療事故</td><td>22人</td><td>52%</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td colspan="3">毎年度実施している「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め170人の参加があり、参加率は92.4%となった。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td colspan="3">-</td></tr></tbody></table>	病院名	内容			矢吹病院	医療安全研修会の参加率は100%となっている。 インシデント・アクシデントの報告があった場合は、現状の把握、原因の分析、対策等の検討を行うとともに、その内容について職員に周知し情報共有を図った。 院内感染症対策委員会は毎月1回開催し、感染症予防等対策について検討した。			喜多方病院	医療安全及び院内感染の対策会議は、それぞれ毎月開催し、医療安全に関する事例検討や注意すべき院内感染等について、各部署に周知徹底を図った。			会津総合病院	医療安全研修会を開催した。			内容	参加者数	参加率	輸液ポンプ・シリンジポンプの安全使用	53人	21.1%	BLS（一次救命処置）研修	198人	78.8%	内視鏡検査時の休薬について	157人	62.5%	緊急コール	46人	18.3%	麻薬取り扱い講習会	85人	33.8%	医療安全ポケットマニュアルを作成し、平成23年5月より全職員へ配布した。			宮下病院	医療安全研修会を開催した。			内容	参加者数	参加率	多数傷病者発生時の初動、救急デモンストラーション展示	21人	51%	赤血球型、血液製剤の選択	16人	38%	心肺停止症例、人工呼吸のデモンストラーション	23人	55%	実例から学ぶ医療事故	22人	52%	南会津病院	毎年度実施している「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め170人の参加があり、参加率は92.4%となった。			大野病院	-			4
病院名	内容																																																																				
矢吹病院	医療安全研修会の参加率は100%となっている。 インシデント・アクシデントの報告があった場合は、現状の把握、原因の分析、対策等の検討を行うとともに、その内容について職員に周知し情報共有を図った。 院内感染症対策委員会は毎月1回開催し、感染症予防等対策について検討した。																																																																				
喜多方病院	医療安全及び院内感染の対策会議は、それぞれ毎月開催し、医療安全に関する事例検討や注意すべき院内感染等について、各部署に周知徹底を図った。																																																																				
会津総合病院	医療安全研修会を開催した。																																																																				
	内容	参加者数	参加率																																																																		
	輸液ポンプ・シリンジポンプの安全使用	53人	21.1%																																																																		
	BLS（一次救命処置）研修	198人	78.8%																																																																		
	内視鏡検査時の休薬について	157人	62.5%																																																																		
	緊急コール	46人	18.3%																																																																		
	麻薬取り扱い講習会	85人	33.8%																																																																		
	医療安全ポケットマニュアルを作成し、平成23年5月より全職員へ配布した。																																																																				
宮下病院	医療安全研修会を開催した。																																																																				
	内容	参加者数	参加率																																																																		
	多数傷病者発生時の初動、救急デモンストラーション展示	21人	51%																																																																		
	赤血球型、血液製剤の選択	16人	38%																																																																		
	心肺停止症例、人工呼吸のデモンストラーション	23人	55%																																																																		
	実例から学ぶ医療事故	22人	52%																																																																		
南会津病院	毎年度実施している「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め170人の参加があり、参加率は92.4%となった。																																																																				
大野病院	-																																																																				
12	会津総合病院	オーダリングシステム・電子カルテシステムの導入による安全・安心な医療の提供	システムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全安心な医療の提供を行う。	平成23年7月より電子カルテ端末からインシデントレポートを入力できるようにした。 オーダリングシステム・電子カルテシステムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全・安心な医療の提供に努めた。	5																																																																
13	病院局	医療安全対策プロジェクトチームの開催	各病院の医療安全担当責任者で構成される医療安全対策プロジェクトチームを定期的に開催し、一層の安全な医療の提供を図るため、リスク情報収集や調査分析を行うなど、医療事故防止対策の強化に組織的に取り組む。	<div>各病院の医療安全担当で構成する県立病院医療安全対策プロジェクトチーム会議を開催し、県立病院における医療安全に関する課題の洗い出し・情報共有や具体的な方策の検討などを行った。</div> <table><thead><tr><th>開催日</th><th>内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成24年6月7日</td><td>平成23年度の県立病院インシデント・アクシデント件数報告 等</td></tr></tbody></table>	開催日	内容	平成24年6月7日	平成23年度の県立病院インシデント・アクシデント件数報告 等	4																																																												
開催日	内容																																																																				
平成24年6月7日	平成23年度の県立病院インシデント・アクシデント件数報告 等																																																																				

基本方針４：職員の資質向上と人材育成（人材育成の視点）

【改革プラン方針】 地域住民に良質な医療サービスを提供するという基本姿勢に立ち、部門間の連携や積極的な対話をすすめ、コミュニケーション能力の向上を図りながら、職員の経営参加に対する意識の向上、職場の活性化、組織風土の改善を図る。 また、院内外の人的資源を有効に活用しながら、次世代を担う職員や核となるリーダーの育成、職員の専門性向上への支援を実施する。		平成 24 年度取組状況及び自己評価																					
目標 1	人材の育成と確保	目標値達成状況		取組状況																			
		【 5 】	目標値を上回った	【 4 】	積極的に行われている																		
[人材の積極的活用] 組織の活性化や職員のモチベーションの向上を図るため、人的資源としての院内の優秀な人材の積極的な活用を図る。 [リーダー育成] 地域住民から信頼される病院となるため、職員の育成を図るとともに、核となるリーダーの育成に努める。		平成 24 年度の取組状況																					
		1 人的資源の積極的な活用とリーダーの育成について 医療スタッフの専門性向上への支援 資格取得におけるリーダーシップの発揮と新たな活動の展開を図るため支援を行っていく。 また、研修などでの自己研鑽を通じて、実践・実行を伴ったさらなる技術発展を目指していく。 【認定看護師の取得状況】(平成 25 年 3 月 31 日現在)																					
		<table><tr><td>認定分野</td><td>取得者数</td><td>備考</td></tr><tr><td>集中ケア</td><td>1 人</td><td>平成 20 年取得</td></tr><tr><td>感染管理</td><td>2 人</td><td>平成 22 年、23 取得</td></tr><tr><td>糖尿病看護</td><td>1 人</td><td>平成 23 年取得</td></tr><tr><td>がん性疼痛看護</td><td>1 人</td><td>平成 24 年取得</td></tr><tr><td>計</td><td>5 人</td><td></td></tr></table>			認定分野	取得者数	備考	集中ケア	1 人	平成 20 年取得	感染管理	2 人	平成 22 年、23 取得	糖尿病看護	1 人	平成 23 年取得	がん性疼痛看護	1 人	平成 24 年取得	計	5 人		
		認定分野	取得者数	備考																			
		集中ケア	1 人	平成 20 年取得																			
		感染管理	2 人	平成 22 年、23 取得																			
		糖尿病看護	1 人	平成 23 年取得																			
		がん性疼痛看護	1 人	平成 24 年取得																			
		計	5 人																				
		【平成 24 年度資格取得状況】																					
矢吹病院		看護管理者研修（ファーストレベル研修）	1 人																				
		精神保健福祉士	1 人																				
		糖尿病療養指導士	1 人																				
		第一種衛生管理者講習会	1 人																				
喜多方病院		看護管理者研修（ファーストレベル研修）	1 人																				
会津総合病院		認定看護師（がん性疼痛看護）	1 人																				
		看護管理者研修（ファーストレベル研修）	3 人																				
		看護管理者研修（セカンドレベル研修）	1 人																				
		認定輸血検査技師	1 人																				
		臨床輸血看護師	2 人																				
		第一種衛生管理者講習会	1 人																				
		特定化学物質作業主任者講習会	1 人																				
宮下病院		看護管理者研修（ファーストレベル研修）	1 人																				
		看護管理研修（看護師長コース）	1 人																				
		暴力団不当要求防止責任者講習	1 人																				
		福島県医師臨床研修指導医養成講習会	1 人																				
		計	19 人																				

〔資質向上の環境づくり〕

各種研修会や学会等への参加機会の拡充や教育体制の充実などにより、全体の水準向上を図るとともに、資質向上に取り組める環境づくりに努める。

２ 資質向上の環境づくりについて

医療情勢を踏まえた課題検討のため看護管理検討会、看護部教育企画委員会等を開催した。
看護研究を通じて自己研鑽に取り組み、看護の質の向上を図るため、「県立病院看護部看護研究発表会」を開催した。

病院名	演題
矢吹病院	精神障がい者を抱える家族の入院時の思い 大震災そのときデイケアに求められたこと
喜多方病院	訴えを繰り返す認知症高齢患者の睡眠を促す援助
会津総合病院	認知機能低下のある結核患者に対する病棟看護師の直接監視下短期化学療法支援における質的検討 糖尿病看護に関する意識調査
宮下病院	育児中の看護師がとらえる心のゆとり
南会津病院	リスク感性の獲得において過去のインシデント報告事例を用いた学習会の効果 チェックリストを用いた環境整備の実態調査

共通目標指標

資格取得者支援者数



H21実績 38人	H22実績 13人	H23実績 13人	H24目標 18人	H24実績 19人	H25目標 10人
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

目標 2	職員の意識改革	目標値達成状況		取組状況	
		【 2 】	目標値を下回った	【 3 】	取り組んでいる
<p>[病院経営セミナーの開催]</p> <p>職員一人一人の経営に対する意識改革を図るため、職員が病院経営に主体的に参加することが重要なことから、経営改善に関わる病院経営セミナーを開催する。</p> <p>[職員提案の実施]</p> <p>職員のモチベーションの向上を図るため、職員提案を実施し、問題点を把握し改善を行うことで、働きがいを感じる良好な職場環境づくりに努める。</p>		平成 24 年度の取組状況			
		1 病院経営セミナーについて			
		公認会計士を講師として迎え、新会計制度に関する勉強会を開催した。			
		2 職員提案について			
		病院名	内容		
		本局	職場で実践している事務改善の取組等について、朝礼時に職員が持ち回りで発表を行い、職員間の情報の共有を図った。（ワンステップ運動、P37 参照）		
		矢吹病院	職員提案は 5 件あった。（地域住民との交流を目的とする矢吹病院長杯ゲートボール大会の開催や給食の物品購入簿様式の一部変更など）		
		喜多方病院 会津総合病院	平成 24 年度は会津医療センターへの移行準備のため、毎年実施していた行動指針の公募や課題目標管理は実施しなかったものの、職員提案は様々な形で行われており業務改善のみならず会津医療センターへの円滑な移行にも役立っている。		
		宮下病院	職員提案は 16 件あった。		
			区分	件数	内容
	最優秀賞	1 件	地域住民への啓もう活動（診療部医局）		
	優秀賞	6 件	当院のクリニカルラダーシステムの確立（看護部） 外		
	努力賞	4 件	節電対策に夏の職場を涼しくする（看護部） 外		
	提案賞	5 件	高齢者の歩行に配慮した正面玄関・車寄せの見直し（事務部） 外		
	南会津病院	職員提案は 28 件あった。			
		共通目標指標			
		<div>職員提案件数</div> <div></div>			
		<div>H21実績 1 0 5 件</div> <div>H22実績 1 1 5 件</div> <div>H23実績 9 3 件</div> <div>H24目標 1 0 0 件以上</div> <div>H24実績 5 0 件</div> <div>H25目標 4 0 件以上</div>			

目標１：人材の育成と確保（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価														
1	共通取組	各分野のスペシャリストの育成	病院内の組織の活性化と職員のモチベーションの向上を図るため、業務推進に当たってのリーダーを育成するとともに、職員の資質向上を図ることを目的に、医療スタッフの専門的で高度な知識や技能の習得を計画的に進める。	資格取得におけるリーダーシップの発揮と新たな活動の展開を図るため支援を行っていく。また、研修などでの自己研鑽を通じて、実践・実行を伴ったさらなる技術発展を目指していく。〔再掲 P 33〕	4														
2		人材育成のための各種研修会への参加や院内教育の充実	職員の資質向上と組織全体の活性化のため、各種研修会や学会等への参加機会の拡充を図るとともに、病院内における職員教育・研修計画に基づき各種研修会等を定期的に開催する。	<table><tr><th colspan="2">各病院の実施状況</th></tr><tr><th>病院名</th><th>主な研修テーマ</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>診療報酬改定にかかる研修会（５月開催） ＳＳＴと認知療法（１月開催）</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>接遇研修（９月）</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>英国における大腸内視鏡、日本人の目から見た英国医療・教育制度の利点と問題点（４月開催） 緩和ケア（８月開催）</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>アウトブレイクの対応、外来における感染対策（10月開催） 病院倫理、看護倫理、情報セキュリティ（11月開催）</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>グリッターバク手洗い（５月開催） 感染対策関連（７月開催）</td></tr></table>	各病院の実施状況		病院名	主な研修テーマ	矢吹病院	診療報酬改定にかかる研修会（５月開催） ＳＳＴと認知療法（１月開催）	喜多方病院	接遇研修（９月）	会津総合病院	英国における大腸内視鏡、日本人の目から見た英国医療・教育制度の利点と問題点（４月開催） 緩和ケア（８月開催）	宮下病院	アウトブレイクの対応、外来における感染対策（10月開催） 病院倫理、看護倫理、情報セキュリティ（11月開催）	南会津病院	グリッターバク手洗い（５月開催） 感染対策関連（７月開催）	4
各病院の実施状況																			
病院名	主な研修テーマ																		
矢吹病院	診療報酬改定にかかる研修会（５月開催） ＳＳＴと認知療法（１月開催）																		
喜多方病院	接遇研修（９月）																		
会津総合病院	英国における大腸内視鏡、日本人の目から見た英国医療・教育制度の利点と問題点（４月開催） 緩和ケア（８月開催）																		
宮下病院	アウトブレイクの対応、外来における感染対策（10月開催） 病院倫理、看護倫理、情報セキュリティ（11月開催）																		
南会津病院	グリッターバク手洗い（５月開催） 感染対策関連（７月開催）																		
3	矢吹病院	県立医大看護学部企画の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の積極的参加	職員の資質向上に取り組む環境づくりを進めるため、地域ケアに必要な知識・技術の習得や事例検討、実践によって、長期在院精神疾患患者に対する看護のレベルアップを目指す「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」への参加を促進する。	平成 24 年度は「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」が実施されなかったものの、同学部で主催する研修会等に 14 人が参加した。	4														
4	会津総合病院	既取得資格の更新に係る支援検討	病院経営上有益な資格を既に有する者に対して、その資格更新に係る経費の支援を検討する。	資格更新に係る経費の支援検討までには至らなかった。	1														
5	病院局	資格取得支援	専門的な知識と技能を持った職員の育成を図るため、全職種で資格取得等のスキルアップの支援体制を確立する。	認定看護師をはじめとした職員の専門性向上への支援を実施した。引き続き、25 年度においても認定看護師等の取得への支援を行っていく。	3														
6		民間実務経験者の採用	これまで培った豊富な経験や専門知識を活用しながら、県立病院の経営改善を図るため、病院経営の管理・監督、企画立案、医療事務等の能力を備えた民間実務経験者を採用する。	民間実務経験者の採用には至らなかった。	1														

7		経営感覚を持った職員の育成	経営感覚を持った職員の育成を図るため、初任者研修会や部門横断的な研修会等でワークショップを開催し、各職員が主体的に業務の問題点を洗い出すとともに、解決策を見いだしていく。	ワンステップ運動 に取り組んだ。 日常業務の中で、できて当然だが、なかなかできそうで、できていない基本について、職員全員が毎日、持ち回りで改善策等の発表を行うことにより、見ているだけ、考えているだけの排除を行い、一歩踏み出して一人ひとりの県立病院基本理念の実践につなげていく活動。			3
				月	テーマ	内容	
				4月 5月	出会いはあいさつから	新年度は新たな出会いの季節。同じ職場内の人、各病院の担当者、関係部署の人、局内に訪問してくる人と、元気のよいあいさつからはじめよう。	
				6月 7月	仕事と生活の充実を	仕事と生活は互いに影響し合うもの。仕事と生活の充実を図ることで、仕事の生産性を高めよう。	
				8月 9月	失敗体験を活かそう	失敗と向き合うことは心理的に大変なことです。失敗には業務改善のためのノウハウがつまっています。失敗体験を活かし、個々のレベルアップにつなげよう。	
				10月 11月	健康管理も仕事のうち	いきいきと仕事をするためには、日頃の健康管理が大切です。健康管理を徹底し、仕事の質を高めよう。	
				12月 1月	快適な職場環境づくりで仕事の効率アップを	オフィス環境次第で気分も変わります。気分良く仕事ができる環境が整えば、仕事に対するモチベーションが高まるだけではなく、仕事の効率アップにもつながるはず。	
				2月 3月	コスト意識を持って仕事に取り組もう	事務職などの間接部門は、直接的に収益を生みませんが、日常業務で発生するコストを見直し、業務の効率化を図ることによって病院の利益に貢献することができます。病院に負けずに創意工夫し、コスト意識を持って仕事に取り組みましょう。	

目標２：職員の意識改革（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
8	共通取組	職員提案制度の実施	職員の病院経営への参加意識の向上を図るため、患者サービスの向上や業務の効率化、経費の削減・収益の向上に向けた職員提案制度を充実する。	職員提案制度を通じて、職員一人ひとりの病院経営に対する参画意識が高まった。	3
9	病院局	病院経営セミナーの開催	職員一人一人の病院運営への主体的参加の意識を促すため、医療を取り巻く環境について、各病院職員に周知するセミナーの実施などにより、病院経営の情報の共有化を図る。	公認会計士を講師として迎え、新会計制度に関する勉強会を開催した。〔再掲 P 35〕	2

基本方針５：地域との連携・共生（地域連携の視点）

【改革プラン方針】 地域のニーズに対応した質の高い医療の提供や収益確保のため、各地域の医療機関や介護福祉施設等との役割分担を図りながら、連携を一層強化していく。 また、地域に親しまれる病院を目指して、地元市町村をはじめとする保健・医療・福祉等の行政機関や各種企業・団体との連携を強化し、地域住民との交流や連携事業を積極的に行う。		平成 24 年度取組状況及び自己評価																																									
目標 1	地域医療機関等との連携	目標値達成状況評価			取組状況評価																																						
		【 4 】	目標値を達成できた		【 4 】	積極的に行われている																																					
〔紹介率の向上〕 紹介率を向上させながら患者数の増加を図るため、地域の医療機関等との機能分担や訪問を通じての顔の見える連携を積極的に進める。 〔社会復帰に向けた体制整備〕 患者さんを地域全体でサポートしていくため、医療機関や保健・介護福祉施設、行政機関との連携を強化し、患者さんが適切な治療を受け早期の社会復帰を果たせるような体制整備を図る。 〔医師派遣等による支援機能発揮〕 へき地医療拠点病院として、国保診療所や介護保健施設への医師派遣による診療応援を実施するなど、地域の病院等との相互協力・支援の取組みを充実する。		1 地域医療連携について 地域の医療・保健・福祉・介護関係者との連携を強化し情報共有に努めた。																																									
		<table><tr><td>病院名</td><td colspan="5">実施状況</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td colspan="5">矢吹町教育委員会との共催で、子どもの心のケアに関する講演会を開催した。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td colspan="5">閉院に伴う診療機能の縮小にあたり関係医療機関を訪問し説明を行った。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td colspan="5">会津地方の医療機関へのあいさつ回りや会津若松医師会への加入促進（14 名が新規加入）を行った。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td colspan="5">へき地診療所への医師派遣や地域の医療・保健・福祉関係者との定期的な情報交換、介護老人福祉施設への定期訪問等を行った。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td colspan="5">地域連携用の専用電話の設置、紹介患者対応マニュアルの整備、医療・保健・介護の関係者との懇談会を開催した。</td></tr></table>						病院名	実施状況					矢吹病院	矢吹町教育委員会との共催で、子どもの心のケアに関する講演会を開催した。					喜多方病院	閉院に伴う診療機能の縮小にあたり関係医療機関を訪問し説明を行った。					会津総合病院	会津地方の医療機関へのあいさつ回りや会津若松医師会への加入促進（14 名が新規加入）を行った。					宮下病院	へき地診療所への医師派遣や地域の医療・保健・福祉関係者との定期的な情報交換、介護老人福祉施設への定期訪問等を行った。					南会津病院	地域連携用の専用電話の設置、紹介患者対応マニュアルの整備、医療・保健・介護の関係者との懇談会を開催した。				
		病院名	実施状況																																								
		矢吹病院	矢吹町教育委員会との共催で、子どもの心のケアに関する講演会を開催した。																																								
		喜多方病院	閉院に伴う診療機能の縮小にあたり関係医療機関を訪問し説明を行った。																																								
		会津総合病院	会津地方の医療機関へのあいさつ回りや会津若松医師会への加入促進（14 名が新規加入）を行った。																																								
		宮下病院	へき地診療所への医師派遣や地域の医療・保健・福祉関係者との定期的な情報交換、介護老人福祉施設への定期訪問等を行った。																																								
		南会津病院	地域連携用の専用電話の設置、紹介患者対応マニュアルの整備、医療・保健・介護の関係者との懇談会を開催した。																																								
		【紹介率・病床利用率の状況】																																									
		<table><tr><td></td><td>矢吹病院</td><td>喜多方病院</td><td>会津総合病院</td><td>宮下病院</td><td>南会津病院</td><td>大野病院</td></tr><tr><td>H24 紹介率</td><td>17.4%</td><td>19.0%</td><td>38.7%</td><td>8.8%</td><td>13.6%</td><td>-%</td></tr><tr><td>H23 紹介率</td><td>20.9%</td><td>21.2%</td><td>25.8%</td><td>11.7%</td><td>12.3%</td><td>-%</td></tr><tr><td>H24 病床利用率</td><td>67.0%</td><td>39.2%</td><td>75.2%</td><td>38.9%</td><td>60.3%</td><td>-%</td></tr><tr><td>H23 病床利用率</td><td>79.5%</td><td>66.4%</td><td>68.1%</td><td>64.1%</td><td>70.7%</td><td>-%</td></tr></table>							矢吹病院	喜多方病院	会津総合病院	宮下病院	南会津病院	大野病院	H24 紹介率	17.4%	19.0%	38.7%	8.8%	13.6%	-%	H23 紹介率	20.9%	21.2%	25.8%	11.7%	12.3%	-%	H24 病床利用率	67.0%	39.2%	75.2%	38.9%	60.3%	-%	H23 病床利用率	79.5%	66.4%	68.1%	64.1%	70.7%	-%	
	矢吹病院	喜多方病院	会津総合病院	宮下病院	南会津病院	大野病院																																					
H24 紹介率	17.4%	19.0%	38.7%	8.8%	13.6%	-%																																					
H23 紹介率	20.9%	21.2%	25.8%	11.7%	12.3%	-%																																					
H24 病床利用率	67.0%	39.2%	75.2%	38.9%	60.3%	-%																																					
H23 病床利用率	79.5%	66.4%	68.1%	64.1%	70.7%	-%																																					
2 医師派遣等による支援機能について 常勤医師の確保・定着を図るとともに、地域の国保診療所等への医師派遣を行った。																																											
<table><tr><td>病院名</td><td colspan="5">実施状況</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td colspan="5">喜多方病院、宮下病院及び南会津病院に対し診療応援を行った。 只見町朝日診療所を光回線で結び画像診断システムを利用して、CT 画像等の遠隔画像診断やカンファレンスを実施し、へき地診療所への支援を行った。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td colspan="5">柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に 1 人派遣（44 回 / 年）） 金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日 1 人派遣（192 回 / 年）） 特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週火曜日に 1 人派遣（50 回 / 年））</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td colspan="5">只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援 22 回 / 年）</td></tr></table>						病院名	実施状況					会津総合病院	喜多方病院、宮下病院及び南会津病院に対し診療応援を行った。 只見町朝日診療所を光回線で結び画像診断システムを利用して、CT 画像等の遠隔画像診断やカンファレンスを実施し、へき地診療所への支援を行った。					宮下病院	柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に 1 人派遣（44 回 / 年）） 金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日 1 人派遣（192 回 / 年）） 特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週火曜日に 1 人派遣（50 回 / 年））					南会津病院	只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援 22 回 / 年）																		
病院名	実施状況																																										
会津総合病院	喜多方病院、宮下病院及び南会津病院に対し診療応援を行った。 只見町朝日診療所を光回線で結び画像診断システムを利用して、CT 画像等の遠隔画像診断やカンファレンスを実施し、へき地診療所への支援を行った。																																										
宮下病院	柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に 1 人派遣（44 回 / 年）） 金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日 1 人派遣（192 回 / 年）） 特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週火曜日に 1 人派遣（50 回 / 年））																																										
南会津病院	只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援 22 回 / 年）																																										

〔地域生活移行に向けた体制整備〕
患者さんの地域生活移行に向けた体制の充実を図るため、ボランティアによる地域住民との交流やグループホームなどとの連携を強化する。

３ 地域生活移行に向けた体制整備について 矢吹病院の取組み

心理社会療法部	平成 23 年度から心理社会療法部として新たに心理教育部・S S T 療法部を組み入れた組織の変更を行い、２本柱としてきた。それぞれが研修会・勉強会などを実施しスタッフ各自の知識のレベルアップ・スキルの向上を図りながら、集団 S S T・個人 S S T・集団心理教育・個人心理教育・家族心理教育を実施した。 心理教育・S S T 療法それぞれが学習会等とともに活発に活動した。			
レクレーション療法部	入院患者全員対象の年間レクを４回実施（映画鑑賞、秋祭り等）病棟レクを病棟ごとに合計 30 回実施（花見、社会体験等）			
作業療法部	実施状況			
	H 24	H 23	H 22	H 21
	14,131 人	17,302 人	12,922 人	13,741 人
デイケア医療部	登録者数 52 人（平成 25 年 3 月末現在）			
	H 24	H 23	H 22	H 21
	4,319 人	3,653 人	3,846 人	3,790 人
訪問看護室	登録者数 82 人（平成 25 年 3 月末現在）			
	H 24	H 23	H 22	H 21
	1,860 人	1,728 人	1,688 人	1,817 人

共通目標指標

紹介率



H 21 実績 1 6 . 7 %	H 22 実績 1 7 . 2 %	H 23 実績 1 7 . 2 %	H 24 目標 2 0 % 以上	H 24 実績 2 1 . 8 %	H 25 目標 1 6 % 以上
----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------------------

病床利用率（一般）



H 21 年 実績 4 7 . 6 %	H 22 実績 5 2 . 2 %	H 23 実績 6 8 . 2 %	H 24 目標 7 5 % 以上	H 24 実績 6 2 . 9 %	H 25 目標 7 3 % 以上
------------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------------------

目標 2	県民への情報提供	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【 - 】	目標値の設定なし	【 4 】	積極的に行われている
<p>[効果的な情報発信]</p> <p>地域に親しまれる病院となるため、院外広報誌の発行等を通じて医療に関する情報や院内活動などの情報発信に取り組む。</p>		《平成 24 年度の取組状況》			
		1 情報発信について			
		ホームページの定期的な更新や院内広報誌の発行、地域住民との交流イベント等を通じて情報発信を積極的に行った。			
		病院名	実施状況		
		矢吹病院	院外広報誌「彩雲」に院内活動や医師紹介を掲載するなど、地域住民や県南方部の市町村、病院などに対し広報 PR 活動を行った。（発行回数：2 回）		
		喜多方病院	看護の日のイベントやさよならコンサートなどを通じて地域住民との交流を図った。		
		会津総合病院	ホームページに各診療科を紹介するページを設けるなど医療機能等に関する情報発信に努めた。（アクセス件数：55,006 件）		
		宮下病院	三島町・金山町・柳津町の広報誌へ病院情報を掲載した。（掲載回数：30 回）		
		南会津病院	院外広報誌「かけはし」に健康情報や人間ドックの案内、医師紹介などを掲載し、郡内全戸に配布したほか、隣接する昭和村では回覧を行った。 （発行回数：3 回、うち 1 回は院内配布）		
		大野病院	-		
<p>[出前講座等の実施]</p> <p>地域に信頼される病院を目指し、行政や団体機関等における講演会等への講師派遣、各県立病院が主催する研修会や出前講座などのイベントなど、職員が積極的に地域に出向いた活動を行う。</p>		病院局			
		「県立病院ニュース」発行（年 1 回発行）			
		2 出前講座等の実施について			
		(1) 市民公開講座の開催			
		会津総合病院では、地域に開かれた病院づくりを目指すため、市民公開講座を開催した。			
		1 日時	平成 24 年 11 月 1 日（参加者：約 350 人）		
		2 内容	【第 1 部 医療・健康セミナー】 講演 1 「冷えは万病のもと～漢方医の視点から～」 講師：三渚 忠道 氏（東洋医学科） 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐 講演 2 「耳の病気でおこること」 講師：小川 洋 氏（耳鼻咽喉科） 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐 【第 2 部 特別講演】 「会津藩と山本八重」 講師：星 亮一 氏（作家）		
		(2) 地域医療セミナーの開催について			
		南会津病院では、地元医師会、保健・介護関係者と「南会津保健・医療・介護懇談会」を開催し、地域の課題を浮き彫りにするとともに、顔の見える関係づくりを行った。			
		1 日時	平成 24 年 11 月 17 日(参加者約 40 人)		
2 内容	当院各部署の取組状況説明、意見交換				

	(3) 出前講座の実施について 地域住民の健康づくりの一助として、地域からの依頼により病院職員が各地に出向き医療講演等を行った。		
	病院名	実施状況	
	会津総合病院	会津若松市 3回 喜多方市 1回 柳津町 7回	(参加者約 160 人) (参加者約 200 人) (参加者数約 270 人)
	宮下病院	三島町 22回 金山町 5回 柳津町 2回	(参加者数 356 人) (参加者 113 人) (参加者数 72 人)
	南会津病院	郡内の保育施設等で医療相談会を実施 地域からの要請に基づき医療講演等に職員を派遣	

目標 1: 地域医療機関等との連携 (各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
1	共通取組	地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーション等との連携強化	地域の医療機関や保健・介護福祉施設と連携を強化し、新規患者数の増加を図るとともに、退院支援体制を構築する。	地域の医療・保健・福祉・介護関係者との連携を強化し情報共有に努めた。〔再掲 P 38〕	4
2	矢吹病院	地域生活移行へ向けた支援体制の強化	地域医療担当部門を設置し、地域との連携や患者の地域生活移行への支援体制の強化を図る。	地域生活移行に向けて、ケース会議を 60 回開催した。	5
3		患者のグループホームへの円滑な移行	「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、長期の社会的入院患者の退院、社会復帰を促進するため、関係機関との連携を強化しながら、患者のグループホームへの円滑な移行支援を行う。 こうした取組みにより平均在院日数の短縮を図る。	地域生活へ移行した 16 名のうち、4 名がグループホームへ、2 名が認知症対応型グループホームへ移行した。	5
4		県立医大看護学部との共同研究実施による患者の地域生活移行に向けた活動の強化	県立医科大学看護学部との共同研究では、入院患者を三群に分類し、社会復帰支援に向けたアプローチを行っているが、今後、リハビリテーション組織の在り方や会議の定期開催数などの見直しを図る。	中止	-
5	会津総合病院	へき地医療拠点センター病院としての支援	喜多方病院、宮下病院、南会津病院へ診療応援を実施することで、へき地医療拠点センター病院としての役割を果たす。	喜多方病院、宮下病院及び南会津病院に対し診療応援を行った。〔再掲 P 38〕 只見町朝日診療所を光回線で結び画像診断システムを利用して、CT 画像等の遠隔画像診断やカンファレンスを実施し、へき地診療所への支援を行った。〔再掲 P 38〕	4
6	宮下病院 南会津病院	国保診療所への診療応援	常勤医師の確保・定着を図り、地域の国保診療所へ医師を派遣するなど、へき地医療拠点病院としての役割を果たす。	宮下病院〔再掲 P 38〕 ・柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に 1 人派遣（44 回 / 年）） ・金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日 1 人派遣（192 回 / 年）） ・特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週火曜日に 1 人派遣（50 回 / 年）） 南会津病院〔再掲 P 38〕 ・只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援 22 回 / 年）	5

行動計画取組状況（基本方針５：地域との連携・共生（地域連携の視点））

7	病院局	地域連携の取組に対する各病院への支援	各病院と連携を図りながら、地域連携の取組みへの支援を行う。	会津医療センターの円滑な開所に向けて、地域の医療機関や医師会を訪問するなど、さらなる連携強化に努めた。	3
8		県立病院収益確保プロジェクトの実施（再掲）	平成 22 年度診療報酬制度改定や、D P C 導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。	平成 26 年度予算・決算から本格適用される新会計制度への移行を見据え、公認会計士を講師に招いて、本局職員及び各病院担当者を対象とした研修会を開催した。当日は、講師より制度の趣旨やポイントについて分かりやすい説明があったほか、活発な質疑応答が行われるなど、新会計制度に関する理解と知識を深めることができた。〔再掲 P 25〕	3

目標 2：県民への情報提供（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価															
9	共通取組	ホームページの充実と院外広報誌の発行	医療に関する情報や院内活動等を地域に幅広く伝えるため、ホームページの充実や院外広報誌の発行を通じて、情報発信機能の強化を図る。	ホームページの定期的な更新や院内広報誌の発行、地域住民との交流イベント等を通じて情報発信を積極的に行った。〔再掲 P 40〕	3															
10		イベントの開催による地域住民との交流促進	健康講座や音楽コンサート等の開催、地元市町村等が主催する医療講演会等への職員派遣などにより、病院の持つ専門的な知識や最新情報を提供し、地域の方々の医療に関する理解促進と普及啓発を図る。	<table><tr><th colspan="2">各病院の取組状況</th></tr><tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>矢吹町との共催で矢吹町の小中学校の教師等を対象とする児童思春期に関する講習会を開催した。（開催日：7/20、10/30）</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>看護の日の集いを開催し、血管と生活習慣病に関する健康講座や看護師によるハンドマッサージの実演などを実施した。（開催日：6/9）</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>市民公開講座や出前講座、糖尿病教室(毎週火・木)を開催した。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズの配付や血管年齢測定、血圧・骨密度測定を実施した。（開催日：5/11）</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>ボーカル、ギター、コーラスによる院内コンサートを開催した。（開催日：12/15）</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>-</td></tr></table>	各病院の取組状況		病院名	取組状況	矢吹病院	矢吹町との共催で矢吹町の小中学校の教師等を対象とする児童思春期に関する講習会を開催した。（開催日：7/20、10/30）	喜多方病院	看護の日の集いを開催し、血管と生活習慣病に関する健康講座や看護師によるハンドマッサージの実演などを実施した。（開催日：6/9）	会津総合病院	市民公開講座や出前講座、糖尿病教室(毎週火・木)を開催した。	宮下病院	看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズの配付や血管年齢測定、血圧・骨密度測定を実施した。（開催日：5/11）	南会津病院	ボーカル、ギター、コーラスによる院内コンサートを開催した。（開催日：12/15）	大野病院	-
各病院の取組状況																				
病院名	取組状況																			
矢吹病院	矢吹町との共催で矢吹町の小中学校の教師等を対象とする児童思春期に関する講習会を開催した。（開催日：7/20、10/30）																			
喜多方病院	看護の日の集いを開催し、血管と生活習慣病に関する健康講座や看護師によるハンドマッサージの実演などを実施した。（開催日：6/9）																			
会津総合病院	市民公開講座や出前講座、糖尿病教室(毎週火・木)を開催した。																			
宮下病院	看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズの配付や血管年齢測定、血圧・骨密度測定を実施した。（開催日：5/11）																			
南会津病院	ボーカル、ギター、コーラスによる院内コンサートを開催した。（開催日：12/15）																			
大野病院	-																			

平成 24 年度県立病院事業会計決算の概要

改革プランにおける経営健全化に向けた収支目標

- 目標 1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成 25 年度までに収支均衡を目指す。
- 目標 2：平成 23 年度までに不良債務の解消を目指す。 平成 23 年度達成済み

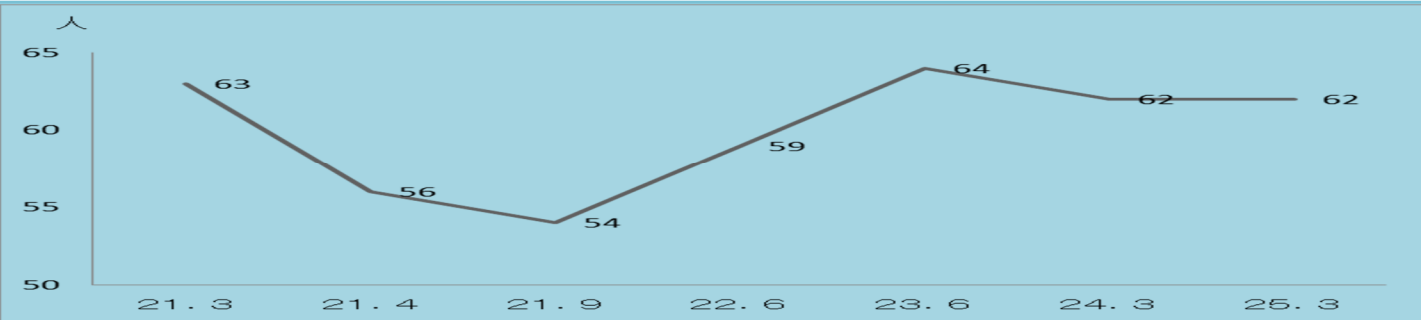
決算の概要

平成 24 年度の純損益は、9.7 億円の損失（前年比 0.2 億円の損失増）となり、これまでの累積欠損金は、275.6 億円となっている。

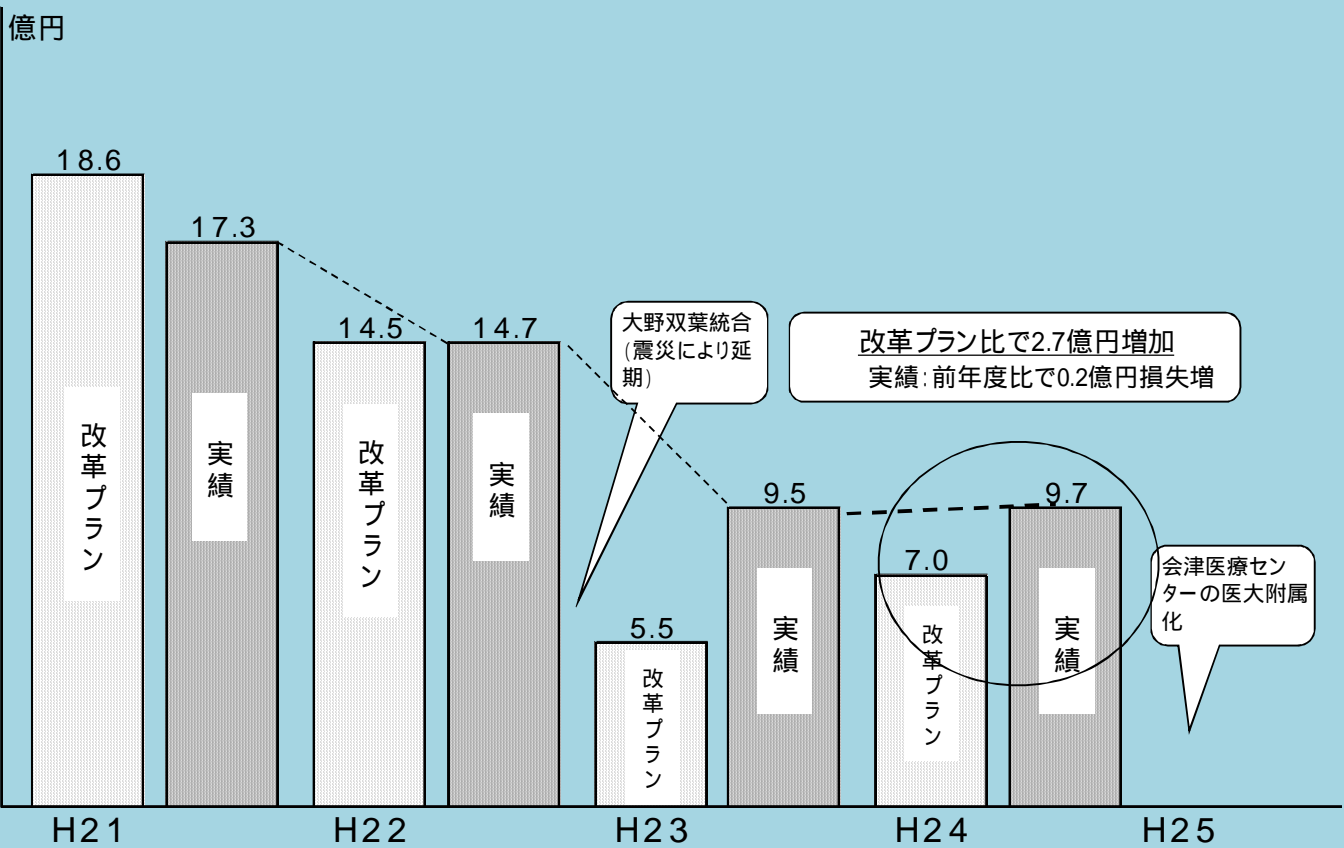
平成 24 年度においては、一般会計から「経営改革支援経費」として 11.2 億円を、特例的な繰入として支援をいただいた。

平成 25 年度は改革プラン計画期間の最終年度にあたることから、総仕上げの年として、改革のスピードを緩めることなく、改革プラン達成に向けて取組を実践・実行していく。

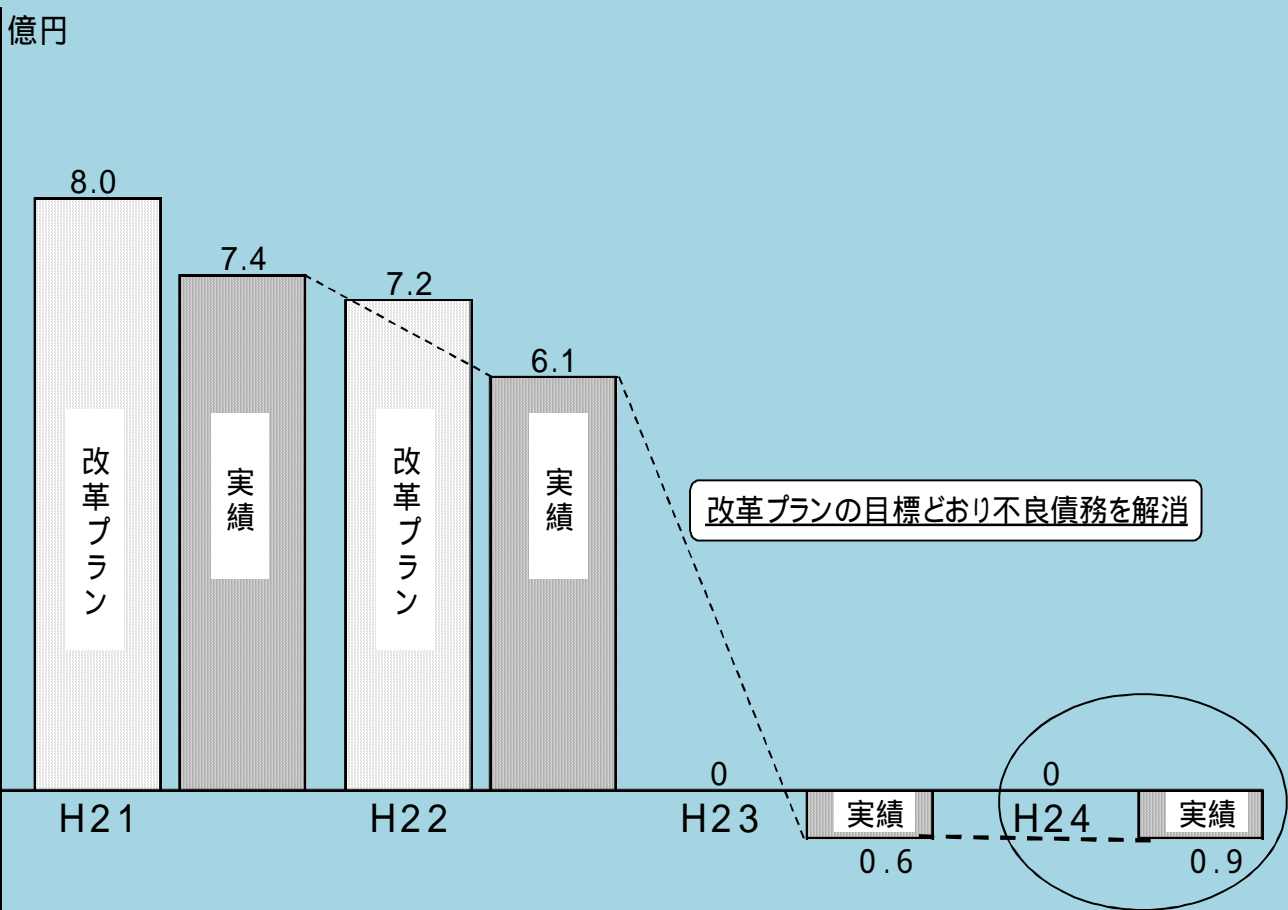
医師の状況



純損失



不良債務



収支計画について

平成 24 年度実績							平成 24 年度の取組状況及び自己評価								
県立病院事業の収支計画 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価			取組状況自己評価					
							経常収支比率	【 ５ 】	目標値を上回った	【 ４ 】	積極的に行われている				
							職員給与比率	【 ５ 】	目標値を上回った	【 ３ 】	取り組んでいる				
							病床利用率	【 ４ 】	目標値を達成できた	【 ５ 】	極めて積極的に行われている				
年度							H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H24 実績	H25 計画	平成 24 年度の経営状況 総収益 11,749 百万円に対し、総費用 12,722 百万円で、差引 973 百万円の純損失となり、対ﾌﾟﾗﾝで 271 百万円の損失増、対前年度で 26 百万円の損失増となった。これにより累積欠損金は 27,563 百万円となった。 医業収益は、会津総合病院における患者数の増加に伴う入院・外来収益の増や退職者増に伴う一般会計補助金の増などにより、対前年度で 854 百万円の増となった。 医業外収益は、一般会計からの経営改革支援経費補助金の減などにより、対前年度で 674 百万円の減となった。 医業費用は、退職者増に伴う給与費（退職手当）の増や会津総合病院における患者数の増加に伴う材料費（薬品費・診療材料費）の増、会津医療センター準備室医師の負担金の増に伴う経費の増などにより、対前年度で 469 百万円の増となった。 平成 25 年度に向けた取組 地域住民に対して良質な医療の提供を行うとともに、健全な病院経営を実現していく。 改革プランに基づき、一人ひとりの思いや考えを具体的な「実践・実行」に移し、新たな視点の展開を図り、医師確保や収益確保に向けた取組み、地域との活動を実施しながら、経営基盤の確立を図っていく。 県立喜多方病院と県立会津総合病院を統合し、福島県立医科大学の附属病院である会津医療センターを整備する。（平成 25 年 5 月 11 日オープン、外来は 5 月 23 日より開始） 大野病院と JA 福島厚生連双葉厚生病院との統合は、震災の影響で延期されたことから、引き続き、住民動向に注視しながら双葉郡町村からの情報収集を重ねるとともに、ＪＡ福島厚生連や県関係部局と十分に連携しながら、浜通り地方医療復興計画に基づく双葉地域の医療供給体制の再構築に向けて、その方向性を検討していく。		
総収益	11,734	11,630	11,546	10,168	11,749	5,110									
医業収益	7,578	7,556	6,970	7,351	7,824	3,470									
うち入院収益	4,038	4,371	3,996	4,794	4,226	2,177									
うち外来収益	2,063	2,084	1,951	1,724	2,089	829									
うち一般会計繰入	1,283	898	850	666	1,356	402									
医業外収益	4,134	4,039	4,570	2,817	3,896	1,640									
うち一般会計繰入	4,102	3,997	3,915	2,681	3,385	1,626									
総費用	13,468	13,098	12,493	10,870	12,722	5,110									
医業費用	12,956	12,629	12,035	10,610	12,504	4,850									
うち給与費	8,345	7,746	7,350	6,743	7,508	3,202									
うち材料費	1,499	1,607	1,612	1,553	1,858	592									
うち経費	1,689	1,916	1,885	1,432	1,996	608									
うち減価償却費	1,253	1,189	1,013	702	993	314									
医業外費用	457	445	426	260	187	260									
純損益	1,734	1,468	947	702	973	0									
不良債務	743	610	62	0	97	0									
経常収支比率	87.3%	88.7%	92.6%	93.5%	94.1%	100.0%									
給与費対医業収益比率	110.1%	102.5%	105.5%	91.7%	88.5%	92.3%									
うち一般病院	106.9%	98.4%	92.1%	85.4%	82.8%	82.6%									
給与費対経常収益比率	71.3%	66.8%	63.7%	66.3%	62.1%	62.7%									
病床利用率（一般）	47.6%	52.2%	68.2%	69%以上	62.9%	73%以上									
H23、24 実績欄の経常収支比率、給与費対医業収益比率、給与費対経常収益比率、病床利用率（一般）は大野病院を除く。															

矢吹病院収支計画について

平成 24 年度実績							平成 24 年度自己評価		
矢吹病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 5 】	目標値を上回った
							職員給与比率	【 5 】	目標値を上回った
							病床利用率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							<p>平成 24 年度の状況</p> <p>総収益（繰入前）1,094 百万円に対し、総費用 1,688 百万円で、差引 594 百万円の純損失となり、対プランで 63 百万円の損失増、対前年度で 75 百万円の損失増となった。</p> <p>入院収益は、地域生活移行の推進や新規患者数が減少したことにより患者数が減少（ 9,549 人）し、対前年度で 137 百万円の減となった。</p> <p>外来収益は、精神科デイケアや訪問看護を中心に患者数が増加（ +830 人）し、対前年度で 5 百万円の増となった。</p> <p>医業費用は、患者数の減少に伴い材料費が減少するなど、対前年度で 42 百万円の減となった。</p> <p>平成 25 年度に向けた取組</p> <p>引き続き、措置入院患者や処遇困難患者の受入体制の充実強化を図る。</p> <p>患者の地域生活移行支援の観点から、医療機関、福祉事務所、市町村との連携強化を図りながら、デイケアと訪問看護の一層の充実を図っていく。</p> <p>児童思春期外来について、講演会の開催や広報誌による広報を通して認知度を高め、新規患者の確保に努める。</p> <p>精神科救急医療システム事業の輪番実施回数を維持し、新入院患者の受入の機会を確保する。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H24 実績	H25 計画			
総収益	(1,344)	(1,074)	(1,223)	(1,240)	(1,094)	(1,321)			
	1,828	1,709	1,742	1,771	1,688	1,796			
医業収益	1,061	951	1,096	1,011	984	1,204			
うち入院収益	715	703	829	839	692	1,031			
うち外来収益	163	156	162	165	167	166			
うち一般会計繰入	174	85	95	0	115	0			
医業外収益	759	756	646	760	704	592			
うち一般会計繰入	756	754	642	646	701	590			
総費用	1,828	1,709	1,742	1,771	1,688	1,796			
医業費用	1,804	1,686	1,720	1,760	1,678	1,786			
うち給与費	1,378	1,250	1,266	1,331	1,259	1,331			
うち材料費	170	163	183	194	169	231			
うち経費	140	138	149	116	138	116			
うち減価償却費	95	117	91	110	92	99			
医業外費用	23	22	21	11	7	10			
純損益	(484)	(635)	(519)	(531)	(594)	(475)			
	0	0	0	0	0	0			
経常収支比率	99.6%	99.9%	100.1%	100.0%	100.1%	100.0%			
給与費対医業収益比率	129.9%	131.4%	115.5%	131.7%	128.0%	110.5%			
給与費対経常収益比率	75.7%	73.3%	72.7%	75.2%	74.6%	74.1%			
病床利用率	70.6%	69.2%	79.5%	85.7%	67.0%	90.5%			
入院 1 日当たり患者数	145.4 人	142.6 人	163.7 人	146.5 人	138.0 人	154.8 人			
外来 1 日当たり患者数	61.2 人	56.8 人	59.2 人	66.3 人	62.4 人	66.3 人			

(注)() 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

喜多方病院収支計画について

平成 24 年度実績							平成 24 年度自己評価		
喜多方病院							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							職員給与比率	【 2 】	目標値を下回った
							病床利用率	【 1 】	目標値を大きく下回った
							平成 24 年度の状況		
(単位 百万円)							総収益 718 百万円に対し、総費用 1,112 百万円で、差引 394 百万円の純損失となり、対プランで 161 百万円の損失増、対前年度で 47 百万円の損失増となった。		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H24 実績	H25 計画	入院収益は、会津医療センターへの移転準備のため 12 月末で入院診療を終了したことなどにより患者数が減少(6,764 人)し、対前年度で 183 百万円の減となった。		
総収益	1,122	837	827	802	718	-	外来収益は、会津医療センターへの移転準備のため 1 月より診療縮小したことなどにより患者数が減少(4,240 人)し、対前年度で 20 百万円の減となった。		
医業収益	962	780	767	755	671	-	医業費用は、患者数の減少により材料費が減少するなど、対前年度で 57 百万円の減となった。		
うち入院収益	441	398	333	447	150	-	平成 25 年度に向けた取組		
うち外来収益	287	275	297	278	277	-			
うち一般会計繰入	205	78	107	0	226	-			
医業外収益	159	57	59	47	47	-			
うち一般会計繰入	158	54	55	46	42	-			
総費用	1,297	1,145	1,174	1,053	1,112	-	県立喜多方病院と県立会津総合病院を統合し、福島県立医科大学の附属病院である会津医療センターを整備する。(平成 25 年 5 月 11 日オープン、外来は 5 月 23 日より開始)		
医業費用	1,289	1,137	1,168	1,034	1,111	-			
うち給与費	826	699	725	637	744	-			
うち材料費	223	202	201	189	156	-			
うち経費	166	174	185	162	150	-			
うち減価償却費	62	51	47	38	42	-			
医業外費用	6	6	6	1	1	-			
純損益	175	308	347	233	394	-			
経常収支比率	86.6%	73.2%	70.4%	77.5%	64.6%	-			
給与費対医業収益比率	85.9%	89.6%	94.5%	84.4%	110.9%	-			
給与費対経常収益比率	73.7%	83.5%	87.8%	79.4%	103.6%	-			
病床利用率	85.1%	74.0%	66.4%	96.0%	39.2%	-			
入院 1 日当たり患者数	42.5 人	37.0 人	33.2 人	48.0 人	19.6 人	-			
外来 1 日当たり患者数	142.1 人	135.0 人	124.1 人	152.9 人	106.3 人	-			

会津総合病院収支計画について

平成 24 年度実績							平成 24 年度自己評価		
会津総合病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 4 】	目標値を達成できた
							職員給与比率	【 5 】	目標値を上回った
							病床利用率	【 4 】	目標値を達成できた
							<p>平成 24 年度の状況</p> <p>総収益 4,551 百万円に対し、総費用 5,813 百万円で、差引 1,262 百万円の純損失となり、対ﾌﾝﾄﾞで 361 百万円の損失増、対前年度で 340 百万円の損失減となった。</p> <p>入院収益は、手術件数の増加等により診療単価が増加（＋7,695 円）したこと、血液内科、外科及び整形外科を中心に患者数が増加（＋8,595 人）したことなどにより、対前年度で 754 百万円の増となった。</p> <p>外来収益は、会津医療センター準備室教授の配置となった血液内科、漢方内科、整形外科、耳鼻咽喉科を中心に患者数が増加（＋7,318 人）し、対前年度で 153 百万円の増となった。</p> <p>医業費用は、患者数の増加や血液内科及び整形外科関係における高額材料の使用などにより材料費が増加したほか、会津医療センター準備室付け教員人件費負担の増などにより経費が増加し、対前年度で 894 百万円の増となった。</p> <p>平成 25 年度に向けた取組</p> <p>県立喜多方病院と県立会津総合病院を統合し、福島県立医科大学の附属病院である会津医療センターを整備する。（平成 25 年 5 月 11 日オープン、外来は 5 月 23 日より開始）</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H24 実績	H25 計画			
総収益	3,734	3,268	3,335	3,616	4,551	-			
医業収益	2,595	2,729	2,850	3,139	4,155	-			
うち入院収益	1,509	1,675	1,733	2,399	2,487	-			
うち外来収益	612	616	739	620	892	-			
うち一般会計繰入	406	365	311	44	711	-			
医業外収益	1,130	535	484	477	382	-			
うち一般会計繰入	1,112	520	470	466	363	-			
総費用	4,673	4,724	4,937	4,517	5,813	-			
医業費用	4,632	4,688	4,903	4,509	5,797	-			
うち給与費	3,029	2,825	2,669	2,661	3,033	-			
うち材料費	554	650	828	816	1,185	-			
うち経費	620	810	1,016	662	1,206	-			
うち減価償却費	369	343	319	330	314	-			
医業外費用	32	30	27	8	7	-			
純損益	939	1,456	1,602	901	1,262	-			
経常収支比率	79.9%	69.2%	67.6%	80.1%	78.2%	-			
給与費対医業収益比率	116.7%	103.5%	93.6%	84.8%	73.0%	-			
給与費対経常収益比率	81.3%	86.6%	80.1%	73.6%	66.8%	-			
病床利用率	50.1%	54.7%	68.1%	59.5%	75.2%	-			
入院 1 日当たり患者数	132.4	125.2 人	97.0 人	156.5	120.8	-			
外来 1 日当たり患者数	369.9	344.8 人	377.0 人	396.5	405.3	-			

宮下病院収支計画について

平成 24 年度実績							平成 24 年度自己評価		
宮下病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 4 】	目標値を達成できた
							職員給与比率	【 2 】	目標値を下回った
							病床利用率	【 2 】	目標値を下回った
							<p>平成 24 年度の状況</p> <p>総収益（繰入前）334 百万円に対し、総費用 621 百万円で、差引 287 百万円の純損失となり、対プランで 132 百万円の損失増、対前年度で 55 百万円の損失増となった。</p> <p>入院収益は、診療単価が増加（+1,274 円）したものの、診療圏域の人口減少や高齢化の進行に加え、東日本大震災による被災患者の減少、長期入院患者の減少などにより患者数が減少（2,956 人）し、対前年度で 68 百万円の減となった。</p> <p>外来収益は、診療単価が増加（+484 円）したものの、診療圏域の人口減少や高齢化の進行、長期投与の緩和などにより患者数が減少（1,710 人）し、対前年度で 4 百万円の減となった。</p> <p>医業費用は、退職手当の減に伴う給与費の減、患者数の減少に伴う材料費の減などにより、対前年度で 107 百万円の減となった。</p> <p>平成 25 年度に向けた取組</p> <p>会津若松市等の病院や管内診療所との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。</p> <p>へき地診療所への代診医派遣の継続や介護老人福祉施設との定期的な情報交換等を通じて、新規患者の獲得を目指す。</p> <p>医療講演会や出前講座など地域住民との交流を積極的に行い、地域に親しまれ信頼される病院を目指す。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H24 実績	H25 計画			
総収益	(437)	(433)	(497)	(438)	(334)	(438)			
	618	677	728	593	620	592			
医業収益	344	388	454	407	293	408			
うち入院収益	179	175	187	234	119	234			
うち外来収益	137	126	123	149	119	150			
うち一般会計繰入	5	64	121	0	34	0			
医業外収益	274	289	274	186	326	184			
うち一般会計繰入	274	289	273	185	325	184			
総費用	619	678	729	593	621	592			
医業費用	613	674	724	589	617	588			
うち給与費	378	444	501	344	393	344			
うち材料費	63	53	55	77	45	77			
うち経費	92	103	95	95	111	95			
うち減価償却費	59	48	49	57	47	56			
医業外費用	4	4	4	4	3	4			
純損益	(181)	(245)	(232)	(155)	(287)	(154)			
	1	1	1	0	1	0			
経常収支比率	100.2%	99.9%	100.0%	100.0%	99.8%	100.0%			
給与費対医業収益比率	109.9%	114.4%	110.4%	84.5%	133.9%	84.3%			
給与費対経常収益比率	61.1%	65.6%	68.8%	58.0%	63.5%	58.1%			
病床利用率	55.9%	55.5%	64.1%	71.9%	38.9%	71.9%			
入院 1 日当たり患者数	17.9 人	17.7 人	20.5 人	23.0 人	12.5 人	23.0 人			
外来 1 日当たり患者数	79.7 人	75.9 人	73.0 人	84.2 人	65.7 人	84.2 人			
(注)() 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額									

南会津病院収支計画について

平成 24 年度実績							平成 24 年度自己評価		
南会津病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 5 】	目標値を上回った
							職員給与比率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							病床利用率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							<p>平成 24 年度の状況</p> <p>総収益（繰入前）1,963 百万円に対し、総費用 2,291 百万円で、差引 328 百万円の純損失となり、対前年度で 125 百万円の損失増、対前年度で 57 百万円の損失増となった。</p> <p>入院収益は、東日本大震災による被災患者の減少や入院患者の増加が見込まれる 1 月から 2 月にかけてインフルエンザが流行したことに伴い入院患者の受入を一部制限したことなどにより患者数が減少（ 3,867 人）し、対前年度で 136 百万円の減となった。</p> <p>外来収益は、小児科を中心に患者数が増加（ +741 人）し、対前年度で 2 百万円の増となった。</p> <p>医業費用は、電子カルテ導入に伴う委託料及び消耗品費の増等により経費が増加するなど、対前年度で 15 百万円の増となった。</p> <p>平成 25 年度に向けた取組</p> <p>当院での手術が可能な患者について、引き続き積極的に入院治療を行うとともに、終末期患者の受け入れも行う。</p> <p>地域連携や医師・看護師の負担軽減に取り組むことにより、新たな施設基準の取得を図る。</p> <p>今後も、後発医薬品の採用を増やすとともに、不用薬剤の削除を行い、後発医薬品比率を上げていく。</p> <p>S P D による価格交渉を行い廉価購入に努めるとともに、診療材料の同等廉価品への切り換えを引き続き検討していく。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H24 実績	H25 計画			
総収益	(1,843)	(1,737)	(2,017)	(1,764)	(1,963)	(1,803)			
	2,288	2,195	2,286	1,967	2,289	1,971			
医業収益	1,383	1,443	1,708	1,464	1,665	1,502			
うち入院収益	627	752	914	874	778	911			
うち外来収益	513	556	631	512	633	514			
うち一般会計繰入	212	101	123	47	215	47			
医業外収益	903	748	577	503	622	469			
うち一般会計繰入	898	742	571	501	602	466			
総費用	2,289	2,196	2,288	1,967	2,291	1,971			
医業費用	2,103	2,018	2,123	1,791	2,138	1,795			
うち給与費	1,206	1,101	1,219	1,048	1,265	1,048			
うち材料費	247	275	344	277	303	284			
うち経費	317	311	339	288	352	288			
うち減価償却費	299	297	185	161	192	158			
医業外費用	183	174	165	176	150	176			
純損益	(445)	(459)	(271)	(203)	(328)	(168)			
	1	1	2	0	2	0			
経常収支比率	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%			
給与費対医業収益比率	87.2%	76.3%	71.4%	71.6%	76.0%	69.8%			
給与費対経常収益比率	52.7%	50.3%	53.3%	53.3%	55.3%	53.2%			
病床利用率	50.1%	58.3%	70.7%	71.4%	60.3%	74.4%			
入院 1 日当たり患者数	50.1 人	58.3 人	70.7 人	71.4 人	60.3 人	74.4 人			
外来 1 日当たり患者数	219.6 人	231.7 人	264.2 人	254.1 人	266.1 人	254.1 人			

(注)() 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

大野病院収支計画について

平成 24 年度実績							平成 24 年度自己評価		
大野病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	-	-
							職員給与比率	-	-
							病床利用率	-	-
							<p>平成 24 年度の状況</p> <p>東京電力福島第一原子力発電所事故により、病院機能が停止している。 総収益 656 百万円に対し、総費用 937 百万円で、差引 280 百万円の純損失となった。</p> <p>平成 25 年度に向けた取組</p> <p>大野病院と J A 福島厚生連双葉厚生病院との統合は、震災の影響で延期した。 引き続き、双葉郡町村からの情報収集を重ねるとともに、J A 福島厚生連や県関係部局と十分に連携しながら、浜通り地方医療復興計画に基づく双葉地域の医療供給体制の再構築に向けて、その方向性を検討していく。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H24 実績	H25 計画			
総収益	1,703	1,435	851	-	656	-			
医業収益	1,231	1,265	95	-	56	-			
うち入院収益	568	669	0	-	0	-			
うち外来収益	351	355	0	-	0	-			
うち一般会計繰入	281	205	94	-	56	-			
医業外収益	470	166	754	-	588	-			
うち一般会計繰入	467	156	127	-	129	-			
総費用	2,277	2,160	1,149	-	936	-			
医業費用	2,242	2,142	1,125	-	919	-			
うち給与費	1,315	1,193	760	-	635	-			
うち材料費	242	263	0	-	0	-			
うち経費	329	361	69	-	4	-			
うち減価償却費	335	301	293	-	279	-			
医業外費用	13	13	12	-	6	-			
純損益	574	725	298	-	280	-			
経常収支比率	75.5%	66.4%	74.7%	-	69.6%	-			
給与費対医業収益比率	106.8%	94.3%	800.0%	-	1133.8%	-			
給与費対経常収益比率	77.3%	83.4%	89.5%	-	98.5%	-			
病床利用率	27.2%	35.9%	-	-	-	-			
入院 1 日当たり患者数	40.9 人	49.6 人	-	-	-	-			
外来 1 日当たり患者数	245.3 人	240.0 人	-	-	-	-			